

2013 年度文化庁委託事業報告書

福島県内被災地方言情報の web 発信

2014 年 3 月

福 島 大 学

人間発達文化学類 国語学研究室



2013 年度文化庁委託事業報告書

福島県内被災地方言情報の web 発信

2014 年 3 月

福 島 大 学

人間発達文化学類 国語学研究室

《 目 次 》

| | | |
|--------------------|-------|----|
| ■事業概要 | | 1 |
| ■被災地方言談話資料 | | 3 |
| 南相馬市小高区 | | |
| 相馬市 | | |
| 双葉郡葛尾村 | | |
| 双葉郡浪江町 | | |
| ■資料 | | 65 |
| 福島大学第 57 回定例記者会見資料 | | |
| 関連新聞報道 | | |

事業概要

1.事業の目的

本事業は、福島県浜通りおよび北部阿武隈高地の方言情報を発信する web ページ構築を目的とする。周知の通り、福島県太平洋沿岸の浜通り地方は東日本大震災において広く津波の被害を受け、さらに東京電力の原子力発電所事故により、多くの自治体の住民が今もなお不便な避難生活を強いられている。また原発事故の被害は沿岸部にとどまらず、飯舘村、川俣町山木屋地区、葛尾村、田村市都路町、川内村といった阿武隈高地北部の諸町村へも及んでいる。

被災された方々がふるさとを離れ各地で避難生活を送る中、ふるさとの方言を懐かしみ、気兼ねなく自らの方言を話したいという思いを抱いていることが、福島大学国語学研究室 2013¹⁾において明らかになっている。

また東北大学方言研究センターは web ページ「東日本大震災と方言ネット」を開設し、宮城県内被災地方言の情報を提供している(<http://www.sinsaihougen.jp/>)。この web ページへのアクセス解析の結果(東北大学方言研究センター2013²⁾)を見ると、宮城県内からのアクセスが多く、こうした web での情報公開が一定のニーズを有することが確認できる。福島県浜通りや北部阿武隈高地方言についても web コンテンツの充実が求められるところである。

本事業の責任者は、これまで福島県内各地において調査を行なって方言データを蓄積してきた。保有する当該方言データ量は国内随一と自負している。これらのデータは当然これまでに各種報告書、研究論文として取りまとめ、公開してきてはいるものの、いずれも学術的資料であり、被災された方々が容易にアクセスし、内容を理解できるという性質のものとはなっていない。

そこで本事業ではこれまでに蓄積した被災地域の方言データを活用し、一般の方にも理解しやすい方言情報を掲載した web ページを作成する。

2.事業の実施体制

本事業の実施体制は以下の通りである。

責任者

半沢康(福島大学人間発達文化学類・教授)

全体の統括, 補充調査マネージメント, データ分析

分担者

本多真史(福島大学人間発達文化学類・研究員(プロジェクト))

補充調査実施, コンテンツ作成

協力者

小林初夫(福島県福島市立岡山小学校・教諭)

¹ 福島大学国語学研究室 2013 『東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業(福島県)』文化庁委託事業報告書

² 東北大学方言研究センター2013 『東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業(宮城県)』文化庁委託事業報告書

3.事業の実施報告

(1)被災地方言の補充調査

昨年度事業に引き続き、今年度も県内被災地方言の自然談話資料収集を行なった。協力の得られた市町村の仮設住宅等を訪問して被災された方々から被災状況等を自由に語っていただき、方言の自然談話を収集した。その際単なる談話調査とせず、被災された方々のお話をうかがう「傾聴支援」にもつながるよう十分に心がけた。今年度収集した談話資料は、2014年2月現在、文字化作業を行っているところであり、完成次第、随時下記 web ページ上で公開する。

(2)福島県内被災地の方言情報を発信する web ページの構築

(1)の作業と平行して web ページの作成作業を行なった。web ページのアウトライン作成を業者へ依頼し、2014年2月現在、下記のようなページを作成中である。ページに掲載する方言に関するコンテンツについても準備を進め、アウトライン完成後にページに反映させる。web ページの公開は2013年度末を予定している。



福島県内被災地方言談話資料

以下には、本事業で収集した福島県内被災地方言の談話資料を掲載する。

すでに他地点での調査も実施済みであるが、紙幅の関係もあり、掲載を4地点に限った。

いずれの談話資料も、おおよそ1時間～2時間程度、東日本大震災の体験などを中心に、複数のインフォーマントに自由に会話をしていただき、その様子を録音させていただいたものである。各地の貴重な方言資料であると同時に、「震災の記録」としても重要な意義を持つ。本書掲載は、これも紙幅の関係でその一部(10～15分程度)にとどまるが、残りの部分についても、他地点の資料とともに適宜整理を進め、準備が整い次第、順次「事業概要」にて紹介した「福島県内被災地の方言情報を発信するwebページ」に掲載する。

文字化作業は福島県内のテープ起こし業者へ業務を発注して行った。納品されたデータを事業責任者が確認し、適宜修正を行っているが、なお誤りなどが残っている可能性がある。今後修正を進め、web掲載版をもって確定版とする。本誌の資料はあくまでも「速報版」であることに留意されたい。

文字化の方法等については、東北大学方言研究センター編2013『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集』の基準にほぼ従っている。ただし「聞き取り不能」の箇所は理由によらず、すべて「×××」のように表記した。あいづちや笑い声などの非言語音は表記していない。

下段の共通語訳は、分担者・本多真史が草稿を作成し、事業責任者が確認・修正した。

福島県被災地方言自由談話

— 南相馬市小高区 —

[収録場所] 南相馬市小池第三応急仮設住宅内

[話者] A(高年層男性), B(高年層女性), C(高年層女性)

[調査者] 半沢康, 小林初夫

— : 津波の話, 私も初めてで, 聞きたかったの。

001C : ワカンナカッタモンナー。

[あなたは津波の様子を]知らなかったものね

— : 地震の時, 最初どうしてっか。

002A : ジシンノ トキワナー オレ タマタマホレー アントギ ソノナ
地震の 時は 俺[は] たまたま あの時 そのな

ジシン イッカゲズマエニ イジネンマエダナ ンデネ サンカゲズマエダ
地震[の] 1ヶ月前に 1年前だな そうではない 3ヶ月前だ

サンカゲズマエニ コシ シジツ シタンダワ。 ホンデ ナンカー
3ヶ月前に 腰[を]手術したんだわ。 それで なんかなあ

ションベン ナガナガ デナクテ ホンデ イシャサ イッテ
小便[が] なかなか 出なくて それで 医者へ 行って

シニョーカサ イッテガ クスリ モラッテ ホッテ ゴゼンチュー キタンダナ。
泌尿科へ 行ってか 薬[を] もらって そして 午前中 [帰って]来たんだな。

ホンデ ウジダノ マンゴガラ ナニガラ ヒコガラ イダンダワ。 ホシテ
それで うちの 孫や 曾孫が いたんだ。 そして

タマタマ ヒコガナ グズッテ ホンデ マンゴド オヤダジワ カエッタンダナ。
たまたま 曾孫が ぐずって それで 孫と 親達は 帰ったんだな。

ホンジ タスカッタノナ アレ イネガッタラ ウジラモ ハー アイッタナ
それで 助かったのな あれ[が]なかったら 俺達も もう あれだな

カンゾグ ホドンド ヤラッチャガモシラネナ。
家族[が] ほとんど やられたかもしれないな。

タマタマ マンゴカ° グズツテ ハヤグ ケーレハツテヤ ケーシタンダワ。
たまたま 孫が ぐずって 早く 帰れもうって 帰したんだ。

003C : エサ ツガネ ウジハー ジシン ナッタツッタモンナ。
家に 着かない うちにもう 地震[に] なったって言ったものね。

004A : ホンデ ケーツテガラホレ マモナグ ウッチャホレ クスリモラツテ キタンダワ
それで [孫達が]帰ってから 間もなく [俺は]家に 薬[を]もらって 来たんだわ

ホーテ テレビナンテ コンナシテ ミツタンダワ
そして テレビなどを このようにして 見ていたんだ

ホッたらバ ズイブン ユレルナー ナンテ ホノヘン ガラガラガラガラ
そうしたら 随分 揺れるなあ なんて[思っていたら] その辺 ながら

コーハー シックリゲーツテクンダワヨハ ウワ コレ シックリゲーツテ クルシ
こう ひっくり返ってくるんだよ うわ これ ひっくり返って 来るし

ダメダナー ナンテ ソドサ デッペツツタツテ コンド ハツテ デダنداヨ
駄目だな なんて 外へ 出ようといったって 今度 這って 出たんだよ

ホイツアナ ホーツテハー コンド ニゲットゴ ネー نداヨハー
そいつへな そして 今度 逃げるところ[が] ないんだよ

オラエデ ウジワ タオッチクルヨーンダ ベンジョヤ アツタンベ アレ
うちで 家が 倒れてくるようだ 便所小屋[が] あっただろう あれ

ベンジョヤワ イチバンニ クズツチャガラ ボチャボチャーットハー。
便所小屋は 一番に 崩れたから ぼちゃぼちゃっともう。

005B : アー ブロックノ。
ああ ブロックの。

006A : ブロックノハ ホノウジ デンキンバッシュヤ コンナンナッテ ユッチキタガラ
ブロックの そのうち 電柱[が] こんなふうになって 揺れてきたから

オレノ オッカ ハヤグ デンキンバッシュヤ オセーロ ウジ
俺の 奥さん[が] 早く 電柱[を] 押さえろ 家[が]

ブッコレルツツワゲダ。 ンデ オレモ デンキンバッシュヤ コンド ××××××
壊れるというわけだ。 それで 俺も 電柱 今度 ××××××

コンチューノ コンナヤズダモノナ ヒックリゲッテキタッテ オレ シタジギニ
コンクリート柱の こんなのもものな ひっくり返ってきたら 俺[は] 下敷きに

ナッチマーワナハ。 ホンナカンジデ イデハ ホンデ コンド コレワ オソラグ
なってしまう。 そんな感じで いて それで 今度 これは おそらく

ツナミワ クルナド オモッタダ ンデハ ボーサイムセンデモ ナンデモハ モー
津波は 来るなど 思ったんだ それで 防災無線でも なんでも もう

デンチューカ° シックリゲッテッカラハー ホシテハ ウジンナガサモ アレ
電柱が ひっくり返っているからもう そして 家の中にも あれ

ケータイノ ボーサイ アッタベ アレダッテハー ガジャガジャ
携帯の 防災[無線が] あっただろう あれだっってもう がちゃがちゃ[に]

ヒックリゲッテッカラハ ウッチャ ハイッテ イネガラハ ソンナノ
ひっくり返っているからもう 家に [放送が]入っていないからもう そんなの

シャベッタダベгентモ チコエネガラ。
しゃべったんだろうけれども 聞こえないから。

007B : イジバンサギノ ジシンデハー ヤラッチャガラ ミンナナ。
一番初めの 地震でもう 被害を受けているから 皆ね。

008A : ウン ミンナハー ツブサッチッカラハー。
うん 皆もう 潰されているからもう。

— : もうだめだったんですね。

009A : ダガラ ボーサイムセン アッタベツツタッテ ボーサイムセンナンテ
だから 防災無線[が] あっただろうといたって 防災無線なんて

ゼンゼン カンケーネーガラハ。ホンジャラハ ツナミーナンテ ユッタッテハ
全然 関係ないからもう。 それならもう 津波なんて いたって

モーナ ホンナ アダマサ ミンナ ネーガラナ。デモ オレワ ムガーシナ
もうな そんな[の]頭に 皆 ないからな。でも 俺は 昔な

ガッコウ ソツギョーシテ アイズノトキニ チリジシンッテユーノ アッタナ
学校[を] 卒業して あの時に チリ地震っていうの[が] あったな

チリジシンノ ツナミナ アントギ オラ ホノツナミノ ケーケン アンノヨ。
チリ地震の 津波な あの時 俺[は] その津波の 経験[が] あんのよ。

— : あったんですか。津波が来たんですね、そうですか。

010A : キテ ヤッパリ ボーハテオ コシテ オラエノ ニワマデ ザーット
[津波が]来て やっぱり 防波堤を 越して うちの 庭まで ざあっと

ナンガレデキタドギ コンド アンダワ ウミノ ミズカ。ホシテ ホレガラ
流れてきたとき 今度 あるんだ 海の 水が。そして それから

ナンネンカ スンキテカラ チャーント コンド ボーハテオ アレタゲダガラ
何年か 過ぎてから ちゃんと 今度 防波堤を あれだけだったから

イジメーターヨンジューガ イジメーターゴンジューダガ カサアゲシタワゲ。
1m40cm か 1m50cm か かさ上げたわけ。

011B : アゲダンナ
上げたのな

012A : ゼンブ アンゲダнда コンダ ゼンブ ヘーキンデハ。コンドワ ツナミ キテモ
全部 上げたんだ 今度は 全部 平均で。 今度は 津波[が] 来ても

ダイジョブダーツチャーゴドデ。 ンダラ オラワ ダイタイ アーコレ

大丈夫だっていうことで。 そうしたら 俺は だいたい ああこれ

ヨガンワ シッターダ コイタゲノ ジシンダガラ ツナミワ タシカニ
予感 は していたんだ これだけの 地震だから 津波は 確かに

クッカモ シャネド ンダゲントモ マズ ウジ ナンガサレルグレワ コネベド
来るかもしれないと けれども まず 家[が] 流されるくらいは 来ないだろうと

オモッタ ンダガラ オラワホノ モノ モッテングツツーゴド シネガッタノナ。
思った だから 俺は 物[を] 持って行くということ[を] しなかったのな。

ナンセ トニカグ ヤマサ ニンゲルゴドダド ホンデホレ ショーボーノ シタジモ
なんせ とにかく 山へ 逃げることだと それで 消防の 人達も

ヤッパリ アドガラホレ ズットナ スピーカーデ ニンゲロ ニンゲロツテワ
やっぱり 後から ずっと スピーカーで 逃げろ 逃げろっては

ユッテ アルツタラシーケド オラワ ホノドギワ イネモンナハ。
言って 歩いたらしいけれども 俺は その時は もういないもんな。

013B : イッカイ キタナ。
[消防の人達は]1回 来たな。

014A : イッカイ キタノガ。 ホッテ ヤッパリ オラノ ブラグデモ ヤッパリ ツナミノ
1回 来たのか? そして やっぱり 俺の 部落でも やっぱり 津波の

ホーユー ナンツーダベ クンレンオ ヤッテンダナ。 ホッテ ホゴサ クンデ
そういう なんていうんだろう 訓練を やっているんだな。そして そこに 組んで

ナンツッタ ヒナンバショオ ツグッテ コッカラコー ニンゲデ コーダッチューゴドワ
なんていった 避難場所を 作って ここからこう 逃げて こうだっていうことは

イッカイワ ヤッパリ ツナミノ アイズゴド ヤッテ クンレンオ ヤッテンダワ。
1回は やっぱり 津波の あれを やって 訓練を やっているんだ。

015B : アー ブラグデ。
ああ 部落で?

016A : ブラグデ ホシテ ホーユードゴノ ヤッパリ ミジオ ツグッテ タガダイサ
部落で そして そういふところの やっぱり 道を 作って 高台に

コゴデ ヒナンシンダヨッテ ユーゴドデ モー シテーシテ アツタンダワ。
ここで 避難するんだよって いうことで もう 指定して あったんだ。

ホンデ コンドホレ オレノ オッカワ ニゲッペドナッテ コンド オレノ
それで 今度 俺の 奥さんは 逃げようとなって 今度 俺の

オヤジワ ニガイサ ネットガラナ オレノオヤジツチューノカ° ヤッパリホレ
父親は 2階に 寝ていたからな 俺の父親というのが やっぱり

ノーコーソグデ イッカイ ニューインシテ インゴガナグナッテガラ コンド
脳梗塞で 1回 入院して 動かなくなってから 今度

アシ キカネガツタンダワ。 ホシテ オレ シタサ ヘヤ ツグッテ
足[が]動かなくなったんだ。 そして 俺[が]1階に 部屋[を]作って

ネセッカツツタッテ ヤッパリ ワー ジブンデ イズマデモ イママデ ズット
寝せようかといっただって やっぱり 自分で いつまでも 今まで ずっと

イダドゴダガラ ヤッパリ ニガイデネッカ ダメダツチューゴドデナ ホシテ
いたところだから やっぱり 2階でないと 駄目だっていうことだな そして

ニガイサ アカ° ッタノヨナ。 ホッテ ニガイデ フタンジ イダンダワ。 ホッテ フロ
2階へ 上がったのよな。 そして 2階で ふたりで いたんだ。 そして 風呂[から]

アカ° ッタバッカリ ホレ フロワ ヒルマコロ イレッタガラハ。 ホシテハー ホノ
上がったばかり[で] 風呂は 昼間[に] 入れておいたから。 そしてもう その

シタズボン イジメーサナ シタギ イジメーサホレ ワダイレ キテナ イダワゲヨ。
下ズボン 1枚にな 下着 1枚に 綿入れ[を] 着てね いたわけよ。

017C : アー サムガッタガラ。
ああ 寒かったから。

018A : サムガッタガラ。 ホンジ コンドホレ オレワハ ニゲッペ ニゲッペッテ

寒かったから。　それで　今度　俺はもう　逃げよう　逃げようって

ユーゴドデホレ　インノニヨー　オレノカーチャンダノハー　アイズワ　マダ　ツナミナンテ
いうことで　いるのによ　俺の奥さんなどは　あれは　まだ　津波なんて

コネナンテ　ニ^ンゲルキ　シネガッタノ　ホーテ　オラエノ　ジーサマラ　トグニホレ
来ないなんて　逃げようとしなかったの　そして　うちの　おじいさん[は]特に

アシ　キカネガラハー　ニガイサ　イッペシ　ニゲッペナンテ　シネガッタガラ
足[が]動かないからもう　2階に　いるし　逃げようなんて　しなかったから

ンデモ　コレ　ワータゲ　ニゲテワナ　ヤッパリ　コレ　ナニゴドアッテモナ
それでも　これ　自分だけ　逃げては　やっぱり　これ　なに[が]あってもな

ドンナゴドシテモ　ワー　ニケ^ッットギワ　オヤガダモ　シッパッテ　イガネツカンネド
どんなことしても　自分[が]逃げるときは　親達も　連れて　行かなければならないと

オモッテ　オレモ　ムリムリ　コンドナハー　オレモ　コシ　シジツシテ　ヤットゴスットゴ
思って　俺も　無理やり　今度なあ　俺も　腰[を]手術して　やっど

ワーモ　アルッテンノサヨー　カイダンワ　セメーガンベシ　アズッカラ　シギズッテ
自分も　歩いているのに　階段は　狭いし　あそこから　引きずって

ヤットゴスットゴ　オレエノ　オヤコドダゲワ　オドシタノ。　ホーシテ　コンド
やっど　うちの親のことだけは　[2階から]降ろしたの。　そして　今度

オレエノ　バツパモ　ホラ　オラエノ　バツパワ　マーダ　ホレナ　ナントモネーガラ
うちの　おばあさんもほら　うちの　おばあさんは　まだ　なんともないから

ジッチノ　モノ　オカーサン　ナニガホレ　シタグ　モッテ　ハヤグ　オチテコー
おじいさんの物　おかあさん　なにか　仕度[を]持って　早く　降りて来い

ナンテユッテナ　ホーテ　オッチキタンダ。　ホシテ　ケートラックサ　ムリムリ　ツンデ。
なんて言って　そして　降りて来たんだ。　そして　軽トラックに　無理やり　積んで。

019B : ニモズ　イッペー　オレモ　モッテキタンダドハ。　キルタゲ　キコンデハ。
荷物[を]いっぱい　私も　持ってきたんだよ。　着るだけ　着こんで。

ナニ モッテキタドオモ一。 ナンニモ ××××××。 フトンカバーダ。
なに[を]持ってきたと思う？ なんにも ××××××。 布団カバーだ。

020C : サムガッタガラナー。
寒かったからなあ。

021B : キルモノ ナンニモ モッテコネード ホンデ。
着る物[は] なんにも 持って来ないよ それで。

022A : ホンデ エーノ ジサマノ キルモノ ナンニモ モッテコネノ。
それで 家のおじいさんの 着る物[も] なんにも 持って来ないの。

023C : アレヤ。
あら。

024A : ジサマワ ソックス イジメーサ シタズボンサナ ワタイレ キタタゲデ オレモ
おじいさんは ソックス 1枚に 下ズボンにな 綿入れ[を] 着ただけで 俺も

クルマサ ノセダガラホレ。 ホシテ オレノ バサマワホレ ギッチリ モッタガラ
[そのまま]車に 乗せたから。 そして 俺の おばあさんは ぎっしり 持ったから

モッタモンダナド オモッテ オレワ ホノママ イダシナ。 ホッタラナ アントキ
[衣類も]持ったもんだと 思って 俺は そのまま いたし。 そしたら あの時

タマタマ オンダガノ イマノ X1 スーパーガ X1 スーパー キッタンダ アノジシン
たまたま 小高の 今の X1 スーパーか X1 スーパー[が] 来ていたんだ あの地震[の時]

025B : X1 ヤ。
X1 屋。

026A : X1 ヤ。 オラエサホレ ニガイサ モッチキテ クレッカラホレ コッチガラ デンワデ
X1 屋。 うちに 2階まで 持ってきてくれるから こっちから 電話で

チューモンシテ ショグリョー ミンナ モッチキテ クレンドワ。 ホンドギ アノ
注文[を]して 食糧[を] みな 持ってきてくれるんだ。 その時 あの

ガタガタユッテ ホノ ナニカカニカ オッチクットゴ ホゴデ カネカンジョ
がたがたと揺れて いろいろ 落ちてくるところ そこで 金[を]勘定

シテンダ ハヤグ ニンゲロ ソンナ カネナンテ イラネガラ
しているんだよ 早く 逃げろ そんな 金なんて いないから

ニンゲロツツタンダ オレナ。 イヤ ゲダバゴワ シックリガエツテクル
逃げろって言ったんだ 俺な。 いや 下駄箱は ひっくり返って来る

ホーシテ ゲダバゴ コンナゴド シテデ カネカンジョ シテンダ。 イヤ
そして 下駄箱[付近で] こんなこと[を] していて 金[を]勘定しているんだ。 いや

ホーシテ ホンナモノ イラネガラ ハヤグ オツリナンテ イラネガラハー
そして そんなもの いないから 早く お釣りなんて いないから

ホイズモツテハ ニンゲロツツタンダハ。 テッキリハ アノヒトワハー ツナミニ
それを持って 逃げろと言ったんだ。 てっきりもう あの人は 津波に

モツテカ[°] ッチャナド オモッタダгентトモ イダツタチケモン。
呑まれたなど 思ったんだけども [無事で]いたそうだよ。

027C : マスク[°] カエツタガナ。
まっすぐ 帰ったかな。

028A : ドッチデ ニゲダガ ワガンネ。
どちらで 逃げたか わからない。

029B : コッチ イガンニヤクテ アッチ ツノボージノホーサ マワッタド。
こっち 行けなくて あっち 角部内のほうへ 回ったって。

030C : ハシナー ジシンデ ハシ オチテダガラナー。
橋なあ 地震で 橋[が]落ちていたからな。

031A : ホシテ コンド オレモ ホイズ ツメバ イガツタンダナ ホノ カッタモノオ。
そして 今度 俺も それ[を車に] 積みば よかったんだな その 買ったものを。

パンカラ イロイロ ショグリョー アツタンダワホレ。 オズリモアツタンダワ。
パンなど いろいろ 食糧[が]あったんだ。 お釣りもあったんだ。

ホーテ ハゴサ イッチャママホレ ホンナニモハー ネンゲルコドシカッテ

そして 箱に 入れたまま そんなにも 逃げることしか

カンケ[°]ーネガラハ ホイズワ ホゴデ ゲンカンニ オイダマンマハ オヤジゴド ヌセデ。
考えないから それは そこで 玄関に 置いたまま 父親を 乗せて。

ホーテ ンジャラハー オラエノ オッカワハ ハヤグ マジサ ネゲロツテ ユーワゲダ
そして そしたら うちの 奥さんは 早く 町に 逃げろって いうわけだ

ジッチ バッパゴド ヌセデ オレワ ケズガラ バイクデ オッカゲツカラッテ
おじいさん[と]おばあさんを 乗せて 俺は 後ろから バイクで 追いかけるからって

アレ オッカノ ユーゴド キーデ マッチャ ニケ[°]ダラ カンゼンニハー オラサンニン
あれ 奥さんの いうこと[を] 聞いて 町へ 逃げたら 完全に 俺達3人[は]

ヤラツチャ ゼンブ ヤラツチャ。 マッチャ ングドゴノ ホノハシタゲカ[°]
[津波に]やられた 全員 やられた。 町へ 行くところの その橋だけが

ノゴツテ ジバンチンカ シタガラ ハシタゲカ[°] ボット タガクツテ
残って 地盤沈下したから 橋だけが ぼんと 高くって

—：橋だけ残っていたんですか。

032A：ノゴツテダノ ヨンジュッセンチノ ダンサ アツタッチガラ。 ホンジ コンド
残っていたの 40cm の 段差[が] あったっていうから。 それで 今度

マジガラ コレ ジブンノ ウジノ ナンツーンダベ シンパイデ ミンナホレ
町から これ 自分の 家の なんていうのかな 心配で 皆

カイシャノ シタジワ モドツテキテ ホーテ クルマ コーヤツテ
会社の 人たちは [自宅に]戻ってきてそして 車[は] こうやって

トーランニヤクテハ。 ホシテ ホゴデハ トマツテイダワゲ。 ホシテ コンド
通れなくて。 そして そこでもう 停まっていたわけ。 そして 今度

ムラガミノ ヒトモ ヤッパリ マッチャ ニケ[°]ッペド オモツテ コツチガラ
村上の 人も やっぱり 町へ 逃げようと 思って こっちから

リョーホーガラ コーイッテ ヤッパリ ワダランニヤクテ ホッカラ マダ ミンナ マダ

両方から こう行って やっぱり 渡れなくて そこから また 皆 また

ナカ° サッチャンダワナ アズグデハ。
流されたんだよな あそこでもう。

033B : ホゴデ ミンナ ナミ クンノ ミデンダズド。
そこで 皆 波[が]来るの[を] 見ていたんだって。

034A : ミデンダ。
見ていたんだ。

035B : ホイズ カブンナカ ナンネダド。
それ[は津波を] かぶらなければならないんだって。

036A : ンダ ホイズ ムゴーガラ ナミ クンノ ミデデ コゴマデ サイショ ハイッテ
そうだ それ 向こうから 波[が]来るの[を] 見ていて ここまで 最初[波が]入って

アーッテ イダラシヨ ホノハシノ ウエデ。 ホンデ アズグデ タスカッタノ
ああって いたらしいよ その橋の 上で。 それで あそこで 助かったの

フタリダナ。
ふたりだな。

037B : ンダナ。
そうだな。

038A : イヤ ソートー イダッテ ユーンダッケ ンジャガラ ホノ タスカッタ ヒトニ キグド
いや 相当[人が]いたと いうんだよ だから その 助かった 人に 聞くと

ナンニン イデ ダレダレ ホノヘンサ クルマ イダガモ ワガンネンダナ。 ズイブン
何人いて 誰々[が] その辺に 車が あったかも わからないんだな。 随分

クルマ メーサ アッテ オラノ ウシロモ ズイブン ナランデダッテ ユーンダナ。
車[が] 前に あって 自分の 後ろも 随分 並んでいたって いうんだな。

ホンデ オラントゴデナ ウジノ カズタゲデワナ ログジュースンケ°ン アンダゲントモ
それで 俺のところだな 家の 数だけでは 63 軒 あるんだけれども

ホイズ ログジューサンケ°ンダガ クチョーワ コノメー ログジューサンニンカ°
それ 63 軒だか 区長は この前 63 人が

ナグナッタ オレ ログジューゴニン ナグナッタノガナド オモッタラ
亡くなった[と言っていた] 俺[は] 65 人[が] 亡くなったのかなと 思ったら

ログジューサンニンカ° ナグナッテンダナ アノブラグデ。 ホジャラ ダイタイワハー
63 人が 亡くなってんだな あの部落で。 だから 大体はもう

イッケン ヒトリグレーノ ワリデハー モー ナグナッテンダワ。
1 軒[に]ひとりくらいの 割合で もう 亡くなっているんだ。

ー：その避難はどこに逃げられたんですか。

039A：ンダガラ ヒナンモナ スット ヤッパリ アダマ ヨンギッテナー
だから 避難もな すると やっぱり 頭[を] よぎってなあ

コゴ トーッテ イッタラバ アズグサ ブロックアル アズグサワ ナニニアルッテ
ここ[を]通って 行ったら あそこに ブロックある あそこには 何々[が]あるって

アダマサ ヨンギッタガラ アズグ トーッタラ モシカ ヘーガサ シックリゲーッテル
頭に よぎったから あそこ[を]通ったら あるいは 塀[が] ひっくり返ってる

アズグデワ ウジ シックリケ°ーッテンデネーガド オモッタガラ ンジャガラ ホゴノ
あそこでは 家[が]ひっくり返っているんじゃないかと思ったから だから その

ナイドゴ ナイドゴノ ホソコイミジハナ ダレモ アンマリ クルマデモ
[瓦礫が]ないところ ないところの 細い道[を] 誰も あんまり 車でも

ハシッタゴド ネーヨーナドゴオ スススット イッテ アンガッチャッタンダナ。
走ったこと ないようなところを すっと 行って 上がっちゃったんだな。

040B：デモナ オラエノ メーノ アレ X2 ノ ブロック タオッチダндаナ
でもな うちの 前の X2 さんの[家の] ブロック[が]倒れていたんだな

オレ メーサ イッテ xxxアゲデ。 カーラ オジネガラ イガッタノ ギャグダガラ
俺[は] 前に 行って xxx上げて。 瓦[が]落ちないから よかったの 逆だから

コー。ハンタイノ アイズダガラ。カーラ オチタラ イガンニガッタ。
こう。反対の あれだから。瓦[が] 落ちたら 行けなかった。

041A : イガンニガッタ ホンデナー オレエノ メーノ ウジカ° コーユーフーナ カーラダガラナ
行けなかった それで うちの 前の 家が このような 瓦だから

トンカ° ッテデ ホレカ° ナ タギノヨーニ ナカ° ッチタンダ ダダーツ アレ
尖っていて それが 滝のように 流れていたんだ だだっと あれ

コーダッタラ オラモーハー クルマモ ナニモ ネンゲヨーネガッタ。
こうだったら 俺はもう 車も なにも 逃げられなかった。

042C : アソゴ トーランニモンナ。
あそこ[は] 通れないもんな。

043A : トーランニガッタ。 ホシテ コンドホレ X3 トユーノインダゲントモ ホノヒトホレ
通れなかった。 そして 今度 X3 という人[が]いるんだけども その人

カーチャン イネッテ アズグデ サワイデダダンダナ。 ホーシテ カーチャンナンテ
奥さん[が]いないって あそこで 騒いでいたんだな。 そして 奥さんなんて

アドガラ クッカラ クルマサ ノレッツッテ ムリムリ ヌセダ ホンジモ ヤッパリ
後から 来るから 車に 乗れと言って 無理やり[車に]乗せた それでも やっぱり

カーチャンコド シンペーデナー カーチャン イネダー カーチャン イネダーッテ
奥さんが 心配でなあ 奥さん[が]いないんだ 奥さん[が]いないんだって

ウッショ フリゲーッテバツカリ イデ ホシテ クルマサ ヌンネガッタタンダワ。 ホシテ
後ろ 振り返ってばかり いて そして 車に 乗らなかったんだわ。 そして

コンド オラエノ メーサ イル アノオバチャン オバチャンモ トーチャン マダ
今度 うちの 前に いる あのおばちゃん おばちゃんも 旦那さん[が] まだ

ケーッテ コネダーナンテ ユーワゲデ イダダゲントモ イーガラ トーチャン
帰って来ないんだなんて いうわけで いたんだけども いいから 旦那さん[は]

アドガラ クッカラ ムリシヤリ ヌセダシダ。
後から 来るから[と]無理やり [車に]乗せたんだ。

044B : シダガラ アノフタリワ タスカッタシダ。
だから あのふたりは 助かったんだ。

045A : アノフタリワ オレ ヌセデッタガラ タスカッタノ。
あのふたりは 俺[が車に]乗せて行ったから 助かったの。

福島県被災地方言自由談話

— 相馬市 —

[収録場所] 相馬市柚木応急仮設住宅内

[話者] A(高年層女性), B(高年層男性)

[調査者] 本多真史

007A : ンダネ ダガラ シンサイノ マエワ イノチネ イノチ ナンボ ダイジダナンテ
そうだね だから 震災の 前は 命ね 命 いくら 大事だなんて

ユッテ ワガッテダノ イノチノ ダイジッテユーノ ワガッテダンダケドモ
いって わかっていたの 命の 大事っていうの わかっていたんだけども

コノシンサイコ^ニ ナッテ コーユーフーニ ホラ ショーボーダンモ ナクナッタノモ
この震災後に なって こういうふうに ほら 消防団[員]も 亡くなったのも

モチロンデスケド ミナサン イソベチクデ ニヒャクゴジューロクニンカダカ
もちろんですけども 皆さん 磯部地区で 256人くらい

ナクナッタノネ ホントニ ダイジダッテ イノチワ オガネデワ カエナイトガネー
亡くなったのね 本当に 大事だって 命は お金では 買えないとかねえ

ホントニ ダイジナモノダツツーゴドカ^ニ ミンナ ワガッタネ。 ナーイ ナニガカニガ
本当に 大事なものだということが 皆 わかったね。 ねえ あれこれ

ナンテユード イノジナンカワ ダイジダッテ ユッテモ サホドニネ ソンナニ シンミニ
などという 命などは 大事だって いっても さほどにね そんなに 親身に

ナッテネ カンカ^ニエルヨーナ アレデ ナガッタンダゲドモ。 コノシンサイニ アッテガラ
なってね 考えるような あれで なかったんだけども。この震災に 遭ってから

ミンナ ヤッパリ イノチワ オカネデワ カエナイモノワ ホントニ イノチシカ
皆 やっぱり 命は お金では 買えないものは 本当に 命しか

ナイッテユーゴドデネ ダイジダッテユーゴドワ ホントニ ダガラ ミンナネー
ないっていうことでね 大事だっっていうことは 本当に だから 皆ね

イカサレタッテユーガ ホントニ カミヒトエナノヨ ニケッペッテ ユッテ ツナミ
生かされたっっていうか 本当に 紙一重なのよ 逃げようと 言って 津波[が]

クッカラ ニケッペーッテ ユッテ ニケタヒト ンデ ツナミクッカラ ニケッペーッテ
来るから 逃げようと 言って 逃げた人 で 津波[が]来るから 逃げようと

ユッテ イヤ ツナミナンテ ゼッタイ コネッテ ユッテダヒト ソーユーノカ ヤッパリ
言って いや 津波なんて 絶対 来ないと 言っていた人 そうというのが やっぱり

ハンダンッテユーカネ ソーユーノガラ イロンナメンデ カミヒトエッテ ユーノガ
判断っっていうかね そういうのから いろんな面で 紙一重って いうのか

ナンテユーノカナー モー トッサノ ヒトトネ。
なんていうのかなあ もう とっさの 人とね。

008B : ニケルキ ネーнда ナンボ サソッテモ ニケルキ ネー。
逃げる気[が]ないんだ いくら 誘っても 逃げる気[が]ない。

009A : ヒヤクニンワ ヒヤクニンデモネー ツナミ クルッテ オモーヒト イナガッタモノ。
100 人は 100 人でもね 津波[が]来るって 思う人[は] いなかったもの。

モー ズット ウジノ オジーサンノ ダイガラ リョーシ ヤッテダダゲドモ
もう ずっと うちの おじいさんの 代から 漁師[を] やって[いる]のだけれども

ゼッタイ ハマワナ コゴノハマワ ツナミ
絶対 浜はな ここの浜は 津波

010B : シゼーント コールグナッテル ハマダガラ フカインデネーガラ
自然と こういうふうになってる 浜だから 深いのではないから

シゼーント ナッテッカラ ツナミ コネナンテ イーツタエ アッタノナ。
自然と [こう]なっているから 津波[は]来ないなんて 言い伝え[が]あったのな。

ムガシノヒトノ ワガンネヒトナンダベ ムガシダガラ。
昔の人の わからない人なんだろう 昔だから。

011A : ムカシノヒトワ ソーユーノ ユツテダガラ ヤッパリ。
昔の人は そういうの 言ってたから やっぱり。

012B : アーユー オーキナ ジシンナツタンダカラ ナンデカンデト オモッタゲンニモ
あのような 大きな 地震[に]なったんだから なんとでもと 思ったけれども

オラモナ イママデトワ チカ°ンダガラ。ユレガ チカ°ーシ トンデモネグ ナカ°ク
俺もな 今までとは 違うのだから。揺れが 違うし とんでもなく 長く

ユレッタベシハ。オラワ ナニ ヒナンシロツテ ユッタガラ ヒナンシタケド
揺れていたし。俺は なに 避難しろって いったから 避難したけれども

オラワ ハヤガツタンダ ホンデモ。
俺は 早かったんだ それでも。

— : A さん B さんご夫妻は、まず真っ先に逃げたんですね。

013A : マッサキツテユーガ
真っ先っていうか

014B : コノヒト ソーマサ イダガラ。
この人[は] 相馬[の市街地]にいたから。

015A : ワタシワ シナイニ イツテダノ シナイニ デ ウジノ オガーサンモ デカゲデ
私は 市内に 行っていたの 市内に で うちの お嫁さん 出かけて

イダダネ ホンデ オトーチャンダゲ ウジニ イダノヨ。ソシテ
いたんだね それで おとうさんだけ 家に いたのよ。そして

016B : テレビワ カゲツタンダガ エネーチケーサ カゲデ オガネガッタラ ワガンネンダナ
テレビは かけていたのか NHK を かけて おかなかつたら わからないんだな

オレモナ。
俺もな。

017A : ジシンナツタ トギニワ オトーチャン ヒトリ。ウジニ イダノワ ジタクデ イダノワネ。
地震[に]なった時には おとうさん ひとり。家に いたのは 自宅で いたのはね。

ンデ ワタシラワ シナイニ イテ タマタマ ワタシワ シンコグニ イッテ
それで 私達は 市内に いて たまたま 私は [確定]申告に行って

ゴゼンチューガラ デガゲテ シンコクシテ ホンデ ケンカイノ センセー ホラ
午前中から 出かけて 申告して それで 県会[議員]の先生 ほら

センキョジムショ ハッテダッタカラ チョード センキョ アンノニネ
選挙事務所[を] 設立していたから ちょうど 選挙[が] あるのにな

デ ケンカイノ センセーノ ジムショニ マワッテ オチャ ゴチソーニ ナッテ
で 県会[議員]の先生の 事務所に 寄って お茶[を] ご馳走に なって

ツイデモラッテ ノムガナート オモッタラ ジシンナッタダモノ。 スコ^カッタノネ
注いでもらって 飲もうかなあと 思ったら 地震[に]なったんだもの。 すごかったのね

ソシテ スンコ^イ ユレデ ワタシ トビダシタノ イッカイ ンデ
そして すごい 揺れで 私 [外に]飛び出したの1回 それで

トビダシタンダゲドモ ソノドギ ミンナネ シナイノ マチノ ウジノ ヤネカ^カ
飛び出したんだけども その時 皆ね 市内の 町の 家の 屋根が

グスガワラダノ ソーユーノカ^カ バダバダ バダバダ ミンナ クズレルンダヨ
棟瓦など そういうのが ばたばた ばたばた 皆 崩れてるんだよ

コーレワ タイヘンダッテ ユッテ タイヘンナノワ ワガンダゲントモ ウジサ
これは 大変だって 言って 大変なのは わかるんだけども 家へ

イグノカ^カ イッサンデ ドンナヤッテ イッタカ ワガンネンダヨ イッカイ
行くのが 一散で どうやって 行ったか わからないんだよ 1回

ジムショニ ハイッテ マタ マータ ユレ キテ アー コレワ タイヘンダッテ ユッテ
事務所に 入って また また 揺れ[が]来て ああ これは 大変だって 言って

オラ ウジニ イグドーッテ ユッテハ モー トビダシタンダヨ ワタシワ ジムショノ
私[は] 家に 行くよって 言って もう 飛び出したんだよ 私は 事務所の

ナガデモ イルナガデ ハヤイガッタノ デンノワ。 ソレダガラ デンキモ
中でも いる[人の]中で 早かったの 出るのは。 それだから 電気も

018B : デンキモ キレダндаベナー シンコ°ーキナンテハ。
電気も 切れたんだろくなあ 信号機なんてもう。

019A : シンコ°ーキナンテ ンダガラ イマ レーサーニナツテ カンカ°エデミデモ ドンナヤツテ
信号機なんて だから 今 冷静になって 考えてみても どのように

イッタガ ワガンネンダヨ。 タダ ジブンノ ブラグニ ハイッタドギニ
行ったか わからないんだよ。 ただ 自分の 部落に 入った時

ハシ サカ°ッテダノネハ ジシンナツタカラッテ コンナニハ サカ°ッテ
橋[が]下がっていたのねもう 地震[に]なったからって こんなに 下がって

クジ アイデダノヨ ソゴダッテハ イッサンダヨ イッサンニハ ウジニ
口[が]開いてたのよ そこだってもう 一散だよ 一散にもう 家に

イガネッカーッテユーガラ ガーント コノ イチバン ランカンノホーノ ネッコ
行かなくてはというから ガーント この 一番 欄干のほうの 根元

コゴノ チカクオ トーッテ アカ°ッテタンダガラ ソシテ ウチノ
ここの 近くを 通って [橋を]上がったんだから そして 家の

ジョーク°チツテ ユーガ コー チョット キューニ ナツテルモンデ
常口って いうか こう ちょっと 急に なっているもので

ウチニ ハイットコ ガーント ウジニ ハイッテッテ ドアオ アゲダラ
家に 入るところ[を] ガーント[して] 家に 入って行って ドアを 開けたら

ヒトッコ イダワナー オトーチャンワハー ヒナンスンノニ トラックニハ
人[が] いたなあ おとうさんはもう 避難[を]するのに トラックにもう

ウンテンセキニ ノッテダノ ンデ ウジノ ムスコワ ハッピーキテ ソシテ
運転席に 乗っていたの で うちの 息子は [消防団の]半被[を]着て そして

シャベツテダндаナー ダレカト デンワデナ。
しゃべっていたんだなあ 誰かと 電話で。

020B : デガゲットゴダッタナ デンワデ ヤッパリ ショーボーノ ダレガド
出かけるところだったな 電話で やっぱり 消防団の 誰かと

シャベッテタンダベ。
しゃべっていたんだらう。

021A : ウン デモハー X1 モ スクニ アレダベ ジシンノアト モドッタンデショー
うん でも X1 も すぐに あれだらう 地震の後 戻ったんでしょ

ウジサ マジニイダノ X1 モハ。
家に 町にいたの X1 も。

022B : X1 モ オレ キタドギワ マダ キタバッカリダ アイズラモ。
X1 も 俺[が]来たときは まだ 来たばかりだ あいつらも。

023A : デットキワナ ホンデ アレ レンラグ トリアッテタンダナ デンワデナ。
出るときは それで あれ 連絡[を]取り合っていたんだね 電話で。

ダカラ サンニンデ イッショニ ウチワ デタノ オカーサンワ ムスコニ X1 ニハー
だから 3人で 一緒に 家は 出たの お嫁さんは 息子に X1 にもう

デンワ モラッテ ツナミダガラホレ クッカラッテ ユーゴドデ ガッコニ
電話[を]もらって 津波だから [津波]来るからってということで 学校へ

コドモダジンドゴサ イゲッテ ガッコー ヒナンジョ ガッコーナノヨ イソベワ
子供達のところへ 行けて 学校 避難所[が] 学校なのよ 磯部は

ショーカ° ッコーカ チューカ° ッコーカ タカダイダカラッテ イソベノ ガッコー
小学校か 中学校か 高台だからって 磯部の 学校[が]

ヒナンジョニ ナッテルノネ。 ンデ ソゴニハー ヒナンスロッテ ユワレデッカラ
避難所に なっているのね。 で そこに 避難しろって 言われているから

イツモ ホンデハー オカーサンワ マスク° イッタッテ ユッタンダネ アントギネ
いつも それで お嫁さんは まっすぐ 行ったって 言ったんだね あの時ね

ワタシワ ウジニ イッカイ モドッタガラ デ コノヒトタジ イデ ハヤグスロー

私は 家に 1回 戻ったから で この人達[が]いて 早くしろ

ナンテ ツナミクンダド ナンテ ユワッチャッテ トッサニ ワタシモ オリダワ
なんて 津波[が]来るんだって なんて 言われたって とっさに 私も [車を]降りたは

イーゲントモ スク°ニ マダ クルマニ ノッテ ヒナンスルナンテ カンガ°エナイノヨ
いいけれども すぐに また 車に 乗って 避難するなんて 考えないのよ

ンデ イッカイ ウジンナガニ ハイッテミタノ。 ホーシタラ ナーニナニハ
で 1回 家の中に 入ってみたの。 そしたら なにもう

アシノ フミバシヨ ナインダモンネ ジシンデ。
足の 踏み場所[も] ないんだもんね 地震で。

024B : ナンデモカンデモ クズレテクルモノ ナガワ
なんでもかんでも 崩れてくるもの [家の]中は

025A : ナニモカニモハ ヒックリカ°エッタダネ シンド ナンボ ナナ ハチ
なにもかにも ひっくり返ったんだね 震度 いくつ? 7? 8?

026B : キケネベ キューダベシタ
[それでは]きかないだろう 9 じゃないか

027A : キューガ。 ソンナノ ワダシ ユレダノ ワガンナイ ユレダッテ ユッタッテ
9か。 それなの[に] 私[は] 揺れたの わからない 揺れたと いったって

コンナニ ナッタダガラ トニカグ シナイニ イダドギ ダガラ アノジシンデワ
こんなに なったんだから とにかく 市内に いたとき だから あの地震では

ホントニ スコ°イド オモッタゲットモ ドッコノ ウジ ミダッテ カワラ
本当に すごいと 思ったけれども どの 家[を]見ても 瓦[が]

オジデダガラハ ンダゲットモ ホンナニ ナニカニナンテ ウジンナガノゴド
落ちているんだから そうだけれども そんなに なにもかもなんて 家の中のこと

ワガンネノナ。
わからないのな。

028B : オラエデモ ヤッパリ グスカ°ワラタゲ オジダタゲダナ アドントゴワ ナンデモ
うちでも やっぱり 棟瓦だけ 落ちただけだな あとのところは なんでも

ネガッタンダ。
なかったんだ。

029A : ネー。
ねえ。

030B : ゼノ メーノ コンクリ アドガラ シタドゴダッテ コンナ カッコーノ
家の 前の コンクリート[は] 後から したところだって こんな 恰好の

サカ°ッタンダナ コツツワ ナンデモ ナガッタンダナ コッチサ クイブッテ×××××
下がったんだな こっちは なんでも なかったんだよな こっちに 杭[を]打って×××××

031A : ホントニ ムチューデ ナニガナンダカ ホントニ イマ レーサーニ ナッテ
本当に 夢中で なにがなんだか 本当に 今 冷静に なって

カンカ°エデモ コードーシテダノワ ホントニ トッサニ ウチニ イッテ ソシテ
考えても 行動していたのは 本当に とっさに 家に 行って そして

ニケ°ロッテ ユワレデ ニケ°デ ニケ°ンノダッテ キノミキノママダワヨ
逃げろって 言われて 逃げて 逃げるのだって 着の身着のままだよ

ナニモチダスナンテ カンカ°エネワナハ ツナミクツカラ ハヤグーッテ
なに[を]持ち出す[か]なんて 考えないな 津波[が]来るから 早くって

ユワッチャガラハナー ハヤグシローッテ イワレデ ワタシハ ホンデモ クルマニ
言われたからもうなあ 早くしろって 言われて 私は それでも 車に

ノットギニ トナリノ コドモ フタリト アト オーバーチャント スク° トナリノ
乗るときに 隣の 子供 ふたりと あと おばあちゃんと すぐ 隣の

ウチノ コネ ウチノ トナリノ デ オトーチャンノニ イヌ
家の 子ね 家の 隣の で おとうさんの[車]に 犬[を]乗せて]

トナリノ マコ°チャンワ イヌニヒキ ダイデハ ワンワン ワンワン ギャンギャン
隣の お孫さんは 犬2匹[を] 抱いてもう わんわん わんわん ぎゃんぎゃん

ギャンギャン ナイデンダヨハ イヌダイデ ニヒキ。 デ オトーチャンノニ
ぎゃんぎゃん 鳴いているんだよ 犬[を]抱いて2匹。 で おとうさんの[車]に

ホンデトラックニ オトーチャンノニ ノセデッテ ユッテネ アト ワタシノニ
それでトラックに おとうさんの[車]に [犬を]乗せてと 言って あと 私の[車]に

フタリノセテ ケーダッタカラ ヨニン ノレルカラド オモッテ ンデ アド
ふたり[を]乗せて 軽自動車だったから 4人 乗れるからと 思って で あと

ヒトリク°ラシノ ヒト ワタシド オナジ ブラク イソベデモ スク° ワタシラ
ひとり暮らしの人 私と 同じ 部落[で] 磯部でも すぐ 私達[は]

オースブラクッテ ユードゴナンダゲド ソノツキ° セリヤジッテ ユードゴニ
大洲部落と いうところなんだけれども その隣 芹谷地と いうところに

ヒトリク°ラシノ シンセキノカタ イルモンデ イッツモ コノヒトワ タノマレテダノ
ひとり暮らしの 親戚の方[が] いるもので いつも この人は 頼まれてたの

ナニコ°ド アッテモ タノムヨーッテ ムスコサンダジ トカイニ イッテッカラ
何事[が] あっても 頼むよって 息子さん達[は] 都会に 行っているから

トーキョーニ イデ ンデ ホノヒトノ アダマンアッカラ ンデワ X2サンッテ
東京に いて で その人の 頭から それでは X2さんと

ユーンダゲド X2オンツァンゴド ワダシ ノセッカラッテ ユッテナ
いうんだけれども X2おじさんを 私[が] 乗せるからって 言って

オットチャーンッテ ユッテ ワタシワ フタリノセデ サンニンデショー ワタシ ホーデ
おとうさんって 言って 私は ふたり乗せて 3人でしょう 私 そして

コンド イッショニ ウチ ジョーク°ジワ デダノ ンデ X1ワ ンデモ ワタシ
今度一緒に 家 常口は 出たの で X1は それでも 私

ミラーデ ミタラ タッタッタド コノショーボー トンショカ° ウチノ チョード
[車の]ミラーで 見たら たったったと この消防[の]屯所が 家の ちょうど

ウジガラ サカ° ッタラ スク° ノトゴ コゴ コーエンニ ナッテデ ウチデワ

家から 下がったら すぐのところ ここ 公園に なっていて うち[の部落]では

ショーボー トンショナノヨ。 インデ ムスコワ チョード コゴノネー コノウチノ
消防[は] 屯所なのよ。 で 息子は ちょうど ここね この家の

ジョークジ コノウジ モドノ ウジナンデスケド ココガラ チョット ホントニネー
常口 この家[は]元の 家なんですけれども ここから ちょっと 本当にね

コゴハ トナリ ウチノ コーエンニ ナッテルカラハ ココニ トンショハ
ここもう 隣 うち[の部落]公園に なっているからもう ここに 屯所

ココノブラクノ トンショ
ここの部落の 屯所

032B : コレ ヒューカイジョダガラ
これ 集会所だから

033A : シューカイジョダガラ コッチ ヒダリカワ チョット チッチャイノカ
集会所だから こっち 左側 ちょっと 小さいのが

シューカイジョナノネ モトカラ アノトンショワ チョット インダガラ コーエンカ^ワニ
集会所なのね もとから あの屯所は ちょっと だから 公園側に

コーエンデ コドモダジ アソブドゴオ ツブシテ インデ チョット ツクッタ コレワ
公園で 子供達[が]遊ぶところを つぶして で ちょっと 造った これは

トンショナノネ デ ウチノムスコ ハンチャー ヤッテットギ イッショケンメ
屯所なのね で うちの息子[が] 班長[を]していたとき 一所懸命

ブラクノ クチャーサンニ オネカ^イシタリ シニ オネカ^イシタリシテ ツクッテ
部落の 区長さんに お願いしたり 市に お願いしたりして 造って

モラッタバッカリデ ホシテ コノトンショ ツグッタラ アタラシー ショーボーシャ
もらったばかりで そして この屯所[を]造ったら 新しい 消防車[を]

アケ^ッカラッテ ユワレダノ ワタシラントコ フルカッタモンデ コノブラクワネー。
あげるからと 言われたの 私達のところ [消防車は]古かったもので この部落はね。

ソレデ ウジノ ムスコワ イッショーケンメー ウーン ハタライテ ソシテ ミンナニ
それで うちの 息子は 一所懸命 ううん 働いて そして 皆に

コエ カゲデネー ソシテ ブラクガラモ キョーリョク モラッテ タリナイ ブブンオ
声[を]かけてね そして 部落からも 協力[を]もらって 足りない 部分を

ソシテ タテデ アタラシー ショーボーシャオ イタダイテ ホンデ コレ
そして [屯所を]建てて 新しい 消防車を いただいて それで これ

キネンシャシン コノヒトダジ タマタマ コノキネンシャシン トッテダモンダガラネ
記念写真 この人達[は] たまたま この記念写真[を] 撮っていたものだからね

アルナカマカ° モッテダンダネ ダレモッテダノカ コレ チョード モッテダノデ
ある仲間が 持っていたんだね 誰[が]持っていたのか これ ちょうど 持っていたので

コレ コーユーナ シャシン デキタンダゲドハ ミンナ ホントワハ ワタシタチノ
これ このような 写真 出来ただけけれども 皆 本当は 私達の

ブラグワ ゼンブ ナカ° サレデッカラ シャシンモ ナンニモ ナンニモ ナイノヨ
部落は [津波に]全部 流されているから 写真も なんにも なんにも ないのよ

ダゲント タマタマ ダレカ コレ モッテダンダネ モッテダンドロー
だけれども たまたま 誰か[が] これ[を] 持っていたんだね 持っていたんだらう

ドンナシテ モドメダノガ ワガンナイケド ンデ コノシャシン
どのようにして 求めたのか わからないけれども で この写真[が]

デキタンダゲド。 イヤ ホントニネー ソシテ タカダイニ ハヤグ イゲー
出来ただけけれども。 いや 本当になん そして 高台に 早く 行け

ナンテ イワレデ コーヤッテ ミラーデ ミダラ チョード ウジガラ デデキテ
なんて 言われて こうやって [車の]ミラーで見たら ちょうど 家から 出てきて

コノトンショントゴニ クルト コッチ ソーマカラ シガラ シナイガラ クル コッチワ
この屯所のところに 来ると こっち 相馬から 市から 市内から 来る こっちは

イソベノ ガッコ タカダイニ イグヨーニ ナッテデ デ コッチワ ハマカイドーデ
磯部の 学校 高台に 行くようになって いて で こっちは 浜街道で

チョード ウチノ マエカ° ハマカイドー デキテ ソシテ スコ°ク
ちょうど 家の 前が 浜街道[が]出来て そして すごく

マツカワウラオーハシマデ ツナカ° ッテテ アソコントコ ヒンパンニ クルマ
松川浦大橋まで 繋がっていて あそこのところ 頻繁に 車[が]

デハイリシテンノヨ ハマカイドーネ ンデ チョード ワタシ イグドギ
出入りしてるのよ 浜街道ね で ちょうど 私[が車で]行くととき

コーシテミダラ ウチノ X1 ワ トコトコトコト トンショニ イグノニ コーシテ
こうして見たら うちの X1 は とことことこ 屯所に 行くのに こうして[車を]

トメダンドッケー アノ シンコ°ーキ コッチ ミキ°カワニ ナッカラ チョード コー
止めたんだよ あの 信号機 こっち 右側に なるから ちょうど こう

ジューモンジニ ナッカネ コゴ トンショントゴ タラ イグナッテワ X1 ワ
十文字に なるからね ここ 屯所のところ そしたら 行くなつては X1 は

コレ トメデнда コレ ハマサ イガンニヨーニド オモッテッテ オモッテ
これ 止めているんだ これ 浜へ 行けないようにと 思って 思って

ワタシワ ミナミニ ハシッタデショー タカダイニ イグノニ ホノ シンセキノモノ
私は 南に 走ったでしょう 高台へ 行くのに その 親戚の者[を]

ノセデ。 デ ソノマンマ ワタシワ デ イグ トジュー X3 ノ オーバーチャンナ
乗せて。 で そのまま 私は で 行く 途中 X3 の おばあちゃんな

スク° ヨコキ° ッタラ アスクントコニ コシカケデダノナー X3 サン イマ ツナミ
すぐ 横切ったら あそこに 腰掛ていたのね X3 さん 今 津波[が]

クンダゲントモ ノセデ イガンニモンナーッテ X2 オンツァゴド
来るんだけど乗せて 行けないもんがあつて X2 おじさんを

ノセンナンネガラ ノセランニワゲダホレ ヒトリ ノセダラネ。
乗せなければならぬから 乗せられないわけだ ひとり 乗せたらね。

イッテ ノセル アタマニ アッカラ ダカラ コゴニ

[X2さんのところへ]行って乗せる[ということが]頭に あるから だから ここに

ドーロニ スワッテンノヨ ツナミ クッカラダガ ナンダガ ホンデモ
道路に 座ってんによ 津波[が]来るからだからか なんだか それでも

ノセランニガラナーッテ ユッテ アド コーナーッテ ユッテッテ ソシテ コンド
乗せられないからなあって 言って 後 おいでと 言ってって そして 今度

ソノサギ マダ イッタラ コンド ウジノ オトーチャンノ シャデネ オトートノ ウジ
その先 また 行ったら 今度 うちの おとうさんの 弟ね 弟の 家[が]

アルモンダガラ ハヤグ イマ ツナミ クッカラ ニケ° ローッテ コエ カゲダノネ
あるものだから 早く 今 津波[が]来るから 逃げろって 声[を]かけたのね

ホンデ ワタシカ° コエ カゲデッタノデ マダ ソノオトートノ カゾグ ゼンブ
それで 私が 声[を]かけて行ったので まだ その弟の 家族[は]全員

タスカッタノ。 ソシテ コンド ソノオトートントゴデワ マダ コンド マタ トナリニ
助かったの。 そして 今度 その弟のところでは また 今度 また 隣に

コエカゲダダッテ。 タラ ソゴデワ ツナミ ゼッタイ コナイッテ
声[を]かけたんだって。 そしたら そこでは 津波[は]絶対 来ないって

ナーニ ツナミナンテ クルーナンテナ カワラデモ カダズゲデローミダイナゴド ユッテ
なに 津波なんて 来るなんてな 瓦でも 片づけているのようなこと[を]言って

ヒナンシナカッタ。

避難しなかった

034B : ×××××× ゼンブ ヤラッチャ。

××××××全部 [津波に]やられた。

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡葛尾村 —

[収録場所] 三春町過足団地葛尾村仮設住宅内

[話者] A(中年層女性), B(高年層女性), C(高年層女性), D(高年層男性), E(高年層女性)

[調査者] 福島大学学生(2名)

— : 震災あった後に、葛尾の言葉とか話してて、なんかほかの困ったこととか嫌な思いされたこととかはありましたか。

143D : オレラワ ネーゲドナ。
俺達は ないけれどもな。

— : 特にない？

144A : ナイネー。
ないね。

145B : ポツント インデ ネーガラナ。
ぽつんと いるのでは ないからな。

146D : コノヘンダッテ ホンナニ カワンネベ。
この辺だって そんなに 変わらないだろう。

147B : カワンネナー。
変わらないなあ。

148C : カワンネ。
変わらないね。

149D : コノヘンノ ノーカドワ チョコチョコ シコトニ テツダイニ イツタリ
この辺の 農家とは ちょこちょこ 仕事に 手伝いに 行ったり

シテンダケド ドンナ コトバダガ オレワ イガナイガラ ワガンネゲド。
してんだけれども どんな 言葉か 俺は 行かないから わからないけれども。

150E : オンナジダヨ。
同じだよ。

151B : コドバワ オナジダヨネ。
言葉は 同じだよね。

152E : ダメダラ ダメダシ ダメデネッカ。
駄目なら 駄目だし 駄目でないなら。

153C : ダメワ ダメ。
駄目は 駄目。

154D : ソモソモ ハンワ オナジダド ムガシノ ハンワ イッショダガラ イッショナンダベナ。
そもそも 藩は 同じだよ 昔の 藩は 一緒だから [言葉も]一緒なんだろう。

155B : ミハルハンダガラナ。
三春藩だからな。

156C : ミハルハン。
三春藩。

157B : カツローモ ミハルハンナンダ。
葛尾も 三春藩なんだ。

158D : カズローワ フタツツニ ワガレル ソーマド ミハル。 ソノミハルカ° コジラノホー。
葛尾は ふたつに 別れる 相馬[藩]と 三春[藩]。 その三春[藩]が こちらのほう。

159A : タムラノホーモ アルンデスカ ジャ オーイノ。
田村のほうも あるんですか じゃ 多いの？

159D : イヤ ソーマワ オーインジャネーベガ ノカ° ワガラ オチアイ オーザサ オーハラジー
いや 相馬[藩]は 多いんじゃないか 野川から 落合 大笹 大原地

アッチワ ソーマダ。 カツローブラグダゲカ° ノユギマデ ハイッテンノガナ
あっちは 相馬[藩]だ。 葛尾地区だけが 野行まで [相馬藩に]入ってんのかな？

カツローノ カツローガ° クレラレダツチューノガナ
葛尾の 葛尾が 与えられたっていうのかな

160C : カンノンサマツツード ミハルノ カンノンコーデ ミハルサ キツタンダガラナ。
観音様という と 三春の 観音講で 三春へ 来ていたんだからな。

161E : イッテダガラナ ホントダ。
行っていたからな 本当だ。

162D : ソーマハンガラ クレラッチャツツタンダンベ ムガシ。
相馬藩から 与えられたって言ったんだろう 昔。

163C : ンダデ ソーマガラ クレラッチ
そうだよ 相馬藩から 与えられて

164D : ジサンキンミデーナ カダジデッテユー ハナシダ。
持参金のような かたちでという 話だ。

165C : ソシテ ホノトジューデ オラケ°サ ヤスندانダド ムガシ。 イツタリキタリ ムガシ
そして その途中で 私の家で 休んだんだって 昔。 行ったり来たり 昔

アルッタガンダナ。
歩いたからだな。

166E : アー ホノ ソーマガラ キテ。
ああ その 相馬から 来て？

167C : ウン キテ キタリ
うん 来て 来たり

168E : ホシテ チューヤドナンダシタ
そして 中宿なんじゃないの。

169C : チューヤドナンダッタチケ。
中宿だったらしい。

170A : アノダイジンヤシキノ イゲンナガ クク°ッテ アルッテダツツーノワ ナニナノ。

あの大臣屋敷の 池の中 くぐって 歩いたというのは なんなの？

171E : アソコデ

あそこで

172A : カクレヤドツツーノ

隠れ宿というの

173C : ゼニツグリ シッタнда。

銭作り[を] していたんだ。

174E : ニセカ°ネ ツグッテタндаド。

贋金[を]作っていたんだって。

— : 贋金？

175E : ダイジンヤシキ カズラオノ

大臣屋敷 葛尾の

176B : ダイジンヤシギワ オガネ ツグッテダ。

大臣屋敷は お金[を]作っていた。

177C : オガネ ツグッテダ。

お金[を]作っていた。

178A : アソコカ°アノ クク°ッテ アルッテタ。

あそこが あの くぐって 歩いていた。

179D : ケッキョグ ドロボーヨケダベ。

結局 泥棒避けだろう。

180E : ダガラー イロイロ アンダワイ。

だから いろいろ あるんだね。

181D : ドロボーヨゲノタメニ イリク°チ ネーガラ シタガラ イグ。

泥棒避けのために 入口[は]ないから 下から 行く。

182B : ダガラ アッチノホーガラ コー ハイラッチャリ シッタндаベ オラワ

だから あっちのほうから こう 入られたり していたのだろう 私は

イッタゴド ネーゲンド。
行ったこと[は]ないけれども。

183C : イッカイ トーチャンド イッカイ アレサ ハイッタゴド アル。 ホノ アレサ
1回 おとうさんと 1回 あれに 行ったこと[が]ある。 その あれに

184B : オガネ ツグットゴサ。
偽金[を] 作るところに？

185C : ウン コゴデ アレシテタンダッテ ドークズミダイナ チカ イッタゴド アル。
うん ここで あれしてたんだって 洞窟のような 地下[に] 行ったこと[が]ある。

アトワ イカ°ネ イッカイダゲダッタナ。
あとは 行かない 1回だけだったな。

185E : オラモ イッタゴドネー イッタノワ イッタゲンチョ ホーユードゴマデワ
私も 行ったこと[が]ない 行ったのは 行ったんだけども そういうところまでは

ミネーナー。 クサカリサ イツタリ シタガラ。
見ないな。 草刈りに 行ったり したから。

186D : イマワハー ミズモ ナンニモ ネーモン。
今はもう 水も なんにも ないもの。

187B : ネーンダベーパー。
ないんだろうもう。

188A : インデモ トーレナイゲド ソクリョーフ シテルッテワ
それでも 通れないけれども 測量は しているとは[聞く]

189E : アノイシカ°キワ スコ°ガッタンダツツタバ タデモノ タダッテダガラ。
あの石垣は すごかったんだっていったらろう 建物[が]建っていたから。

190B : ムガシワナ。 ヤゲダリマッターリシタガラ ホレワナ ナグナッチャッタノ。
昔はな。 焼けたりなどしたから それはな なくなっちゃったの。

—：今はその形は残ってるんですか。

191C：イシカ°ギ イシカ°キクライダ。
[残っているのは]石垣 石垣くらいだ

192E：イシカ°キデ タイラナ ココワ ヤシキアッタドゴ ホノイシワ ホレナ
石垣で 平らな ここは 屋敷[が]あったところ その石は それな

ホノママ アッタッタガラナー。
そのまま あったからなあ。

193C：イシモ ケッコー ウツタンデネーガ。 イシ アレノ
石も 結構 売ったんでないか？ 石 あれの

194D：ミンナ イロイロ ツカッタラシーナ モッテッテ ドダイニ ツカッタ
皆 いろいろ 使ったらしいな 持って行って 土台に 使った

195C：ドダイ ダガラ
土台 だから

196D：ハナシ キグド
話[を] 聞くと

197E：ココカ°ホレ ダイジンヤシギアドダッテユーナ テイリ्यूジョマデ アンダガラ
ここが 大臣屋敷跡だっというな 停留所まで あるんだから

198B：アンダ
あるんだ

—：私たちはふるさととのつながりを考えるうえで方言というのは結構大事な役割があるんじゃないかなっていうふうに思ってるんですけども、なんか、方言は心の支えになるなどか、そういうふうに思われたりとかしますか。別にいらないなどか。

199B：イラナーイッチューゴドデワ ナイベゲド フツーニ シャベッテッカラ。
いらないということでは ないだろうけれども 普通に 話しているから。

200D : フツーニ ベツニ コレカ° ダイジナノガ ドーカッテユーケデワ。
普通に 別に これが 大事なのか どうかっていうわけでは。

ソーユーワケデ シャベッテルゴドワ ナイワナ
そういうわけで 話していることは ないな

201B : フツーニ シャベッテルゴドダガラ
普通に 話していることだから

202D : タダ フツノー イッパン ダダ ホノコーユー ワガイヒト キテ シャベラレット
ただ 普通の 一般 ただ そのこういう 若い人[が]来て 話されると

チョット キンチョースル。
ちょっと 緊張する。

203E : トショリシタジトダラバ
年寄[の]人達とならば

204C : イロイロ ザツバナシモナ ホーゲ° ンモ デデ クンダベゲンチョ
いろいろ 雑談もな 方言も 出て 来るんだろうけれども

205B : オレラワ コレカ° フツダド オモッテッカラ
私達は これが 普通だと 思っているから

206C : ソー フツダド オモッテルカラ ベツニ ホンナニ キニモ シナイシ
そう 普通だと 思っているから 別に そんなに 気にも しないし

207D : ツキアイモ ミンナ オナジ シトダガラ。
付き合いも 皆 同じ 人だから。

208B : オナジ ンダナ
同じ そうだな

209C : オナジ ブラグダシ
同じ 部落だし

210D : ベツニ マタ ナニガ カワレバ チョット ホガニイッテ ナニガ
別に また なにか 変われば ちょっと 他に行って なにか

ハナシスルヨーニ ナレバ ズイブン
話[を]するように なれば 随分

211B : キー ツカウガモシンニガ。
気[を]使うかもしれないか。

212D : ホレデワ シャベランニベゲントナ。
それでは 話せないだろうけれどもな。

213B : キー ツカッタラハ ダマッテルモノ。
気[を]使ったら 黙っているもの。

214C : ホントダ。
本当だ。

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡葛尾村 —

[収録場所] 三春町貝山応急仮設住宅内

[話者] A(高年層男性), B(中年層女性), C(高年層男性)

[調査者] 半沢康

061A : ソレデワ マー ヒナン シナンネツツーノ ホノマエニ
それでは まあ 避難しなければならないいうの その前に

ナミエノ ヒトカ° キテダワゲヨ カズローサナ ヒナンシテ キテダワゲ。
浪江の 人が 来ていたわけだよ 葛尾にな 避難して 来ていたわけ。

062B : ホレモ シンニデダ。
それも 知らないでいた。

063A : オラモ タイシテ シンニーク° レデ イダнда ホシタラ トモダジ
俺も あまり 知らずに いたんだ そうしたら 友達[の]

X1 クン キタнда オレンチャ。 ナンダナンツツタラ イヤ
X1 君[が]来たんだ 俺の家に。 [俺が]なんだ? なんて言ったら [X1 君は]いや

ヒナンシロツツワッチャガラ ニジッキロナイダガラ キタワゲダ
避難しろと言われたから 20 キロ[圏]内だから 来たわけだ

ホシテ ゴゼンチュー オレケ° デ アスンデ ゴコ° カラ コンド イク° ダッテホレ
そして 午前中 俺の家で 遊んで 午後から 今度 行くんだって

ヒナンシテツカラ ナニ カセツカ コレ ヤツカラ エーサ イツタンダナー。
避難しているから なに 食べさせるか これ やるから 家に 行ったんだなあ。

ホシテ ジュウサン ジューヨッカノ ヨルダガラ ワタシラ デダノワ。
そして 13[日] 14 日の 夜だから 俺ら[が] 出たのは。

クジゴジュップン ナンボダッタ。

9時50分 何時だった？

064B : ジュージニ ナルコロダト ヒナンノアレ ナンツツタノワ クジコロデ ネガッタノ
10時に なるころだと 避難のあれ なんて言ったのは 9時ごろで なかったの？

065A : ンダ マエニナ ヨーイシロツテ イワツチェ イッセーデ アイズデ
そうだ 前にな 用意してると 言われて いっせいに 合図で

ナカ°シタワゲダ ジンビシテロチューワゲデネ。

流したわけだ 準備してるといわけでね。

066C : コノサギワ ×××××× セートカ° コドモダジ ナミエガラ アカ° ッテキテ
この先は ×××××× 生徒が 子供達 浪江から 上がってきて

タイクカンサ インノ シンニガッタモノ ヨバツテキテ コンド フロ ワガシテ
体育館に いるの 知らなかったもの 呼んできて 今度 風呂[を]沸かして

067A : オラモ トミオガノ X2 サンチ チョーソンカイデ オラモ イッテダガラ
俺も 富岡の X2 サンチ 町村会で 俺も 行ったから

シッテルヒト コンヤ フロハイリサ コーッテ ユッテダノ。 ナーニ
知ってる人[に] 今夜 風呂入りに おいでと 言ったの。 なに

コンヤドゴデネー ソノハ ヨル ヒナンダモノハ。 アド X2 サン ドゴサ
今夜どころでない その 夜 避難だものもう。 あと X2 サン どこへ

イッタベド オモッタラ ドゴダツケ ヨゴハマサ イッテダ。
行ったんだろうと 思ったら どこだっけ 横浜へ 行ったた。

067B : ソッチノホーサ ヒナンシタツツーノガナハ。
そちらのほうへ 避難したというのかな。

068A : ワダシラワホレ ミンナシテ フグシマノホーニ アズマタイイクカン。
俺たちは 皆で 福島[市]のほうへ[避難した] 吾妻体育館。

— : そうですか。じゃ、大変でしたね。

069C : ヒトバンマデ トマンネガ ヨル ヨナガニイッテ アサケ° コンド ヤナイズサ
一晩は 泊らないか 夜 夜中に行つて 朝[は] 今度 柳津へ

イッタンダガラ。
行つたのだから。

070A : サムガッタモナー
寒かつたものなあ

— : ちょうど、しかも雪降つてたつていうのね。

071A : イジメー ウスイ モーフモラッタク° レデ ダンボール スイデ イダンダ
1枚 薄い 毛布[を]持つたくらいで 段ボール[を]敷いて いたんだ

072C : サムイダガ ヌグイダガ ワガンネデ オワッチャッタワイ アサケ°
寒いのか 暖かいのか わからなくて 終わつてしまつたよ 朝

— : そうですね。うち、近いんですよ、吾妻運動公園。だいぶいらつしやつたというのはね、聞いたんですけれども。その後はどうされたんですか。

073C : アイズノ ヤナイズ
会津の 柳津

074A : アイズノ バンケ°ノ カワニシコーミンカンサ イッタヒドド アズクサ
会津の 坂下の 河西公民館に 行つた人と あそこに

ノゴッタヒドド インダヨ アズマサ イガネツツーヒトカ°ナ。
残つた人と いるんだよ 吾妻[運動公園]に [坂下に]行かないという人がな。

075C : アノコロデ ハンブン カナリ イダッタンダベ
あのころで 半分 かなり [吾妻運動公園に]いたんだろう

アドガラ デダゲンチモナー
後から 出たけれどもなあ

076A : アドガラキテ ハイッタヒトモ インダベ アソコサ ンデネーガ。
後から来て [吾妻運動公園に]入つた人も いるのだろう あそこに そうでないか？

077C : B チャンワ ハヤグ ニケ° ダッタベハー。

B ちゃんは 早く 逃げたんだろう。

078B : シーン アダシラワ ミハルニ ヒナンシタンダモン。

いいえ 私らは 三春に 避難したんだもの。

079A : コゴサ イレバ イガッタンダワイ。

ここに いれば よかったんだよ。

080B : ミハルニ ヒナンシタノ チョード X3 サン ムガシ デッチボーコー シテダドギ
三春に 避難したの ちょうど X3 さん[が] 昔 丁稚奉公[を] していたとき

イッショニ ハタライタ ヒトカ° ズット コーリユーシテダガラ ソゴニ ヒナンシタノ。
一緒に 働いた 人が ずっと 交流していたから そこに 避難したの。

ムゴーモ ビックリシタベ サンニンダド オモッタノカ° ジューニンモ イッタガラ。
先方も びっくりしただろう 3人だと 思ったのが 10人も 行ったから。

ソゴニ ヒナンシテ アカチャン イダガラ ミルクカ° ナクナッチャッタノ
そこに 避難して 赤ちゃん[が]いたから ミルクが なくなっちゃったの

アド ナンニチブンシカ ネーナンテ イヤー ドッコ キーデモ
あと 何日分しか ないなんて いやあ どこ[に]聞いても

ゼンゼン ネーナンダモンナ ハイッテコナイナンテ ユワレデ。
全然 ないんだもんね 入って来ないなんて 言われて。

— : 物がなかったですもんね。

081B : デ コーリヤマ キーダッケ イッパイ ナランデテ カエッカナンダガ
で 郡山[の情報を] 聞いたら いっぱい 並んでいて 買えるかどうか

ワガンネナンテ ヤッチ。
わからないなんて 言われて。

082A : セブンイレブンナンテ ノミモノモ ムスビモ ナガッタンダガラ。

セブンイレブンなんて 飲み物も おにぎりも なかったんだから。

オラ アズマガラナー バンケ°サ イク°ドギ ヒル セブンイレブン マワッタラ
俺 吾妻[運動公園]からなあ 坂下へ 行くとき 昼 セブンイレブン[に] 回ったら

カーベド オモッタラ ノミモノモネー ムスビモ ネーダモン ナンニモ ネーダ。
買おうと 思ったら 飲み物もない おにぎりも ないんだもの なんにも ないんだ。

083B : コゴモ ソーダッテヨー カラッポ。
ここも そうだってよ 空っぽ。

084A : パンモ ネーガラ ナンニモナンネ。
パンも ないから なんにもならない。

— : やっぱ, 1 週間ぐらいはなかったですもんね, 福島も。

085C : オラワ ×××××××× ヒヤグジューゴコ°ーセン トーランニンダゾーナンテ
俺は ×××××××× 115 号線[は] 通れないんだぞなんて

ユギアンダドナンテ ヨンコ°ーセン マワッテ イグキ シタバー。
雪[が]あるんだってなんて 4 号線[を] 回って 行こうと しただろう。

ダガラ セブンイレブンサ マワッタナンダッテ ダガラ オソガッタнда。
だから セブンイレブンへ 寄ったなどと だから 遅かったんだ。

086A : ガソリンカ° ネード ナッテッカラ オラワ アズマサ クルマ オイデッタンダ
ガソリンが ないと いうから 俺は 吾妻[運動公園]に 車[を] 置いていったんだ

ホレデ バスデ イッタンダ バスデネー X4 カ°クルマデ ミンナシテナ イッタンダ。
それで バスで 行ったんだ バスではない X4 の 車で 皆で 行ったんだ。

087B : ウジワ マンタンニ イレテタンダ。 ガスケンシン ヤンナッカナンネナンテ
うちは 満タンに 入れていたんだ。 ガス検診[を] やらなければならないなんて

リョーホー マンタンニ イレデダнда。
両方[の車に] 満タンに 入れていたんだ。

—：村で、そうすると連絡が最初あったんですか。10時ごろに。

088B：ヨルダッタヨネー。

夜だったよねえ。

089A：ンダ

そうだ

—：避難っていうのは

090A：イッカイ ムセンデ ムセン チョードナイ カテーサ アッカラ ホイツァ ナカ°シタノ。

1回 無線で 無線[が] ちょうどね 家庭に あるから それに 流したの。

—：なるほど

091A：クジハンコロ コーユーワゲデ イマカラ ジンビシトゲト ミジカナモノワ ジンビシテ

9時半ごろ こういうわけで 今から 準備しておけど 身近な物は 準備して

モッテヤベツチューワゲダ。

持って行けというわけだ。

—：それでバスかなにかで、みなさん、車。

092B：アダシラワ クルマ。

私らは 車。

092A：ジカヨーシャ アルヒトワ ジカヨー。 アトワ バスワ ヤクバデ ナンダガ

自家用車[が] ある人は 自家用[車]。 あとは バスは 役場で なんだか

ヨーイシマスカラ コーツチューワゲ。

用意しますから 来いというわけ。

093C：×××××× イッタベー。

×××××× 行っただろう。

094A：ヤグバノ

役場の

—：じゃ、あれですか。葛尾からだから、津島かどこか通って、川俣通って、山木屋通って。

095A : ウン ツシマ イッテ カーマダ トーッテ。ソレカ° シッテルヒト ××××××
うん 津島 行って 川俣 通って。それが 知ってる人 ××××××

アズマコーエンナイ シンニー ヒトナンテ アノヨル イカ°シニワ ワガンネ ヒトナンテ
吾妻公園ね 知らない 人なんて あの夜 行けないよ わからない人なんて

タクシー タノンデ サギ コー イッテモラッタッテ イッタゾ オラワ
タクシー[を]頼んで 先 こう 行ってもらったって 言ったぞ 俺は

ワガッテタガラ。
わかっていたから。

— : じゃ、吾妻に行ってくれと言われたわけですか。

096A : ンダ ムラノホーサ
そうだ 村のほうに

— : なるほど

097A : レンラク ズット アズマノ タイイクカンニ タシカ アズグサ ハイロヨーニハ
連絡 ずっと 吾妻の 体育館に 確か あそこに 入るようにもう

レンラグシッタネーノガ。 ンジャガラ カズローバリデ ネーワ
連絡していたんじゃないかな。 だから 葛尾[村民]ばかりで ないわ

イヤー ドンドン モーフ ショッテクル ヒトガラ トデモ ウゲツケ シンダッテ
いやあ どんどん 毛布[を]背負ってくる 人から とても 受付 するんだって

ハー オーサワキ° ダガラ ワレサギ ダガラハ ソースット ダイヒョーユッテ
もう 大騒ぎだから 我先 だからもう そうすると 代表[者を]言って

ナンメーッテ ユエッテ ユワッチッカラ。
[受付で]何名って 言えと 言われているから。

— : それは地区ごととか。

098A : チクデネー ワカ° クンデ
地区ではない 自分達で 組んで

ー : 家族ごとに, なるほど。

099B : インダワナー ヒトリヒトリデワ タイヘンダモンナー。
そうだよなあ ひとりひとりでは 大変だもんなあ。

100A : タイヘンダワイ ヒトリヒトリワ ホーシテ モーフ モラエンダガラ。
大変だよ ひとりひとりは そして 毛布[を]貰えるんだから。

101C : アサケ° ナント ゴハン デダッタガ ナンダッタ パン。
朝などは ご飯[が]出たか? なんだった? パン?

102A : インダデ パンダデ
そうだって パンだって

103C : マンマ ナクテ ハー
ご飯[は]なくて もう

104A : インダ
そうだ

105C : ×××××× ナガッタナンダドナ インダワイ ナンニン アズバッカ ワガンネー ××××××
×××××× なかったんだってな そうだよ 何人 集まるか わからない ××××××

106A : イヤ ナンニモネーダ モラウモノ モラッテ クーシカ ネーワイ。
いや なんにもないんだ もらうもの もらって 食うしか ないよ。

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡浪江町 —

[収録場所] 福島市北幹線第一応急仮設住宅内

[話者] A(高年層女性), B(高年層女性)

[調査者] 半沢康

001A : ワタシノ マンゴノコダガラ ヒコ ワタシノ ヒコワ チューガ°クニネット サンネン
私の 孫の子だから 曾孫 私の 曾孫は 中学2年と 3年[が]

イタンデシタゲドモ ソノフタリワ ソノナミ ミデルシ ウジノナガデ コー
いるのだけれども そのふたりは その波[を]見ているしうちの中で こう

ウゴイデル スンガダ ミデダンデ オンナノコワ ソーデモナガッタンダケド
[波が]動いてる 姿[を]見ていたんで 女の子は そうでもなかったんだけれども

オドゴノコワ チョット イッシューカングライネ キモチ オチコンデマシタ
男の子は ちょっと 1週間ぐらいね 気持ち[が]落ち込んでました

イマワ ナンデモナイデスケド
今は なんでもないですけれども

002B : ヤッパリナ ナミ ミタシトワ オソロシガッタモノナ。 ダガラ ツナミッチューノワ
やっぱりな 波[を]見た人は 恐ろしかったものな。 だから 津波というのは

コー アンゲテ コンド ザーット サラッテイク°ダワナ。
こう 上げて 今度 ざっと さらって行くんだよね。

003A : シタガラ コー クルノネ ウエガラ コー クンデナクテ シタガラ
下から こう 来るのね 上から こう 来るのではなくて 下から

004B : コー アンゲテ ガット コー サラッテ イク°ダワナ ソシテ コンド
こう 上げて ガッと こう さらって 行くんだよね そして 今度

005A : ナンカ ミンナ ニケ[°]ットギモ ウジノ ニワ ムグムグ ムグムグッテ コー ミンズ
なんか 皆 逃げるときも うちの 庭 むくむく むくむくって こう 水[が]

ワイデルヨーナ カンジダツタンダッテ ソレデ ツナミデ ナッテルッテ ダレモ
湧いているような 感じだったんだって それで 津波で なっているって 誰も

ワガンナイガラ アレ ナンダ スイ[°]ンドーカン ハレツシタンデネー スイ[°]ドーヤサンニ
わからないから あれ なんだ 水道管[が] 破裂したんでね 水道屋さんに

デンワシナクチャナンネーナッテ ユーヨーナゴトデ ヒナンシタラシーノ。 トゴロカ[°]
電話しなければならないなって というようなことで 避難したらしいの。 ところが

ソーンデナインダワ シタガラ コー ナミ キテタノネ。
そうでないんだわ 下から こう 波[が]来ていたのね。

— : 水来てたんですかね。

006A : ウン ソーユーハナシ キーデ アー ナルホドト オモッテネ ジツカンデシタ
うん そういう話[を]聞いて ああ なるほどと 思ってね 実感でした

ワタシラモ ゲンニ トシヨリ メージ ンマレダナンダッテ イッショニ
私らも 現に 年寄り 明治 生まれだなどと[いう人と]一緒に

セーカズ シテテモ コゴワ ウケ[°]ンドワ ツナミ アンガッタゴド ネーンダガラ
生活していても ここは 請戸は 津波[が]上がったこと[は] ないんだから

ツナミワ コナイ ダイジョーブダッテユー コエバツカリ キーデダガラ ツナミ
津波は 来ない 大丈夫だっていう 声ばかり[を] 聞いていたから 津波[が]

クットワ オモワナガッタノネ ヒナンクンレンワ ナンカイモ シマシタケドネ
来るとは 思わなかったのね 避難訓練は 何回も しましたけれどもね

ホントニ ツナミ クルッテワ オモッテ ナガッタンデスヨ ダガラ
本当に 津波[が]来るとは 思って いなかったんですよ だから

ウジノ ムガイノ ヒトタジモ ジーチャンモ バーチャンモ ナグナッテンノ。
うちの 向かいの 人たちも おじいさんも おばあさんも 亡くなっているの。

—：そうですか。

007B：ウゲドノ ヒナンジョワナ コゴ ヤマノホーナンダгентモ ヒナンジョカ° チヤント
請戸の 避難所はな ここ 山のほうなんだけれども 避難所が きちんと

セービ シテナイガラナ ダガラ。
整備 していないからな だから。

008A：チャント ナッテタンデネ タダ ハラッパン ナッテデ タダ タガイッテ
きちんと 整備されていたのではない ただ 原っぱに なっていて ただ 高いって

ユーダケデネ。
いうだけでね。

009B：ヤマッテユカ ハダゲッテユーヨーナトゴ ヒナンジョダガラ トデモ
山というか 畑というようなところ 避難所だから とても

イランニガッタ ホンジェ コゴサ ドーロサ ズーット クルマカ° ナランデダガラ
いられなかった それで ここに 道路に ずっと 車が 並んでいたから

ウジノ ジーチャンナンカワ ヤッパリ ヤマサ アンガッタンデワ ダメダト オモッテ
うちの おじいさんなどは やっぱり 山に 上がったんでは だめだと思っ

ホシタラ クルマ ナランデッケントモ ワギ ミダラ モゴーガラ クル クルマワ
そうして 車[が] 並んでいるけれども 脇[を]見たら 向こうから 来る 車は

ナイガラ ホンジャ スーット イッテ ホーシテ イッタ。
ないから それでは[と反対車線を] すっと 行って そして 逃げた。

010A：ソレデ セーカイダッタンダ。
それで 正解だったんだ。

011B：イハンシテ コッチガラ コー トーッテ イッタガラ ブジダッタノ。
違反して こっちから こう 通って 行ったから 無事だったの。

—：やっぱりなんかそういうところ、紙一重なんですかね。

012B：ホントダネ
本当だね

013A : ドーロニ クルマオイデ ヒナンジョニ アンガッタ ヒトモ イツカラ
道路に 車[を]置いて 避難所に 上がった 人も いるから

ハシレナガッタミダイネ クルマ
走れなかったみたいね 車

— : ああ、もう車捨てちゃってね。

014A : ジュータイシテ
渋滞して

015B : ダガラ ホノクルマワ ミンナ ナカ°サッチャワ
だから その車は 皆 流された

016A : ダガラ ミンギニ コー ズレデ オイコシカゲデ ニンゲタシトワ タスカッタ
だから 右に こう ずれて 追い越しかけて 逃げた人は 助かった

— : 助かった、なるほどね。一応避難するところまでは道はあって。

017A : アルンデス。
あるんです。

— : 車で行けるみたいなことですね。

018B : ソーソー ソーナノ。
そうそう そうなの。

019A : デモ チューシャジョーッテユーノワ ナイノネ。
でも 駐車場というのは ないのね。

— : なるほど。

020B : ターダノナ ハダゲッテユーガ タデノウジナンテユー ハダゲッテユーガナ
ただのな 畑というか 館ノ内なんていう 畑というかな

ソーユードゴオ チャントシタ

そういうところを ちゃんとした

021A : ジバンワ タガイゲドネ。
地盤は 高いけれどもね。

022B : セービモ ナンニモ シテナインダモノ。 ダガラ イランニヨ トデモ
整備も なににも してないんだもの。 だから [避難所には] いられないよ とても

クラグナレバ サムグナルシナ トデモ ヒナンシテワ イラレナイノ。
暗くなれば 寒くなるしな とても 避難しては いられないの。

023A : ソンデ ヤッパリ ソノヒナンジョガラ ミンナ ヤマ コエデ
それで やっぱり その避難所から 皆 山[を]越えて

ロクコーセンツテユー コクドーノホーニ デデネ ソシテ タスカッタミタイデス。
6号線という 国道のほうに 出てね そして 助かったみたいです。

— : なるほどなるほど。請戸は6号のさらに海側のほうなんですね。

024A : ソーナンデス。
そうなんです。

— : 6号線という

025B : ダガラ ガッコ セートモナ ショーンガクセーモ ヨーチエーンモ ウゲドノ シタジワ
だから 学校[の]生徒もな 小学生も 幼稚園[児]も 請戸の 人達は

センセーノ ユードンガ ハヤガッタガラ ソレデ ユードンシテ イッタガラナ
先生の 誘導が 早かったから それで 誘導して 行ったからな

— : じゃあ、よかったですね。

026A : ダレヒトリモ カゲナクテネ。
誰ひとりも 欠けなくてね。

027B : ヒトリモ アレダッタワ。
ひとりも あれだったわ。

—：それは先生がちゃんとあれだったですね。

028B：ウン センセーノ ハンダン イクテナ ユーンドーシルノ ハヤガッタガラ デ ホノ
うん 先生の 判断[が] よくてな 誘導するの 早かったから で その

コドモコド マッテヨーッテ マッテデ マタ ツナミニナ アレ シラッチャ
子供のこと 待っていよう 待っていて また 津波にな あれ された

ヒトモ インノ マゴ クッカラ マンゴクッカラッテ。
人も いるの 孫[が]来るから 孫[が]来るからって。

—：やっぱりそれぞれ逃げろっていいですよ。津波はね。

029A：ムガエニ イッテ ツレデキテ ソシテ オヤコデ ナカ°サレダ シトモ インノヨ。
迎えに 行って 連れてきて そして 親子で 流された 人も いるのよ。

—：そうですか

030A：ホントニネ アーユードギワ カミヒトエナンダネ。
本当にね ああいう時は 紙一重なんだね。

031B：モドッテキテ イヤ ナニガ モッテキヨー マダ ジーチャン バーチャンコド
[家に]戻ってきて いや なにか 持って来よう また おじいさん[や]おばあさんを

ムガエニ イッタドガナー ホンデ ナカ°サッチャ シトモ イルシ ホントニ
迎えに 行ったとかなあ それで 流された 人も いるし 本当に

アレダッタワナ。
あれだったね。

—：本当、でも岩手の三陸はね、なんか津波来るっていうのは昔から聞きますけど、本当浜通りはね。

032B：アンナニ クットワ ダレモ オモッテ ネガラ。
あんなに 来るとは 誰も 思って いないから。

—：仙台よりこっちは、津波は来ないもんだと思ってますよね。

033B : ソー。
そう。

034A : チリジシンノドギモネ チリジシンノドギ ワタシモ タイケンシマシタケド チョード
チリ地震の時もね チリ地震の時 私も 体験しましたけれども ちょうど

タウエノコロシタガラ デモ アントギニワ コンナ シタガラ モグモグモ
田植えのころでしたから でも あの時には こんな 下から もくもくも

コナイシ ナミンガ タンダ サーツ キテ ズット ヒケンノワ ヒケテイグノ
来ないし 波が ただ さっと 来て ずっと 引けるのは 引けていくの

ズット ヒケンノ。 ソシテ ウミノ ソゴ ミエデ サカナカ コーナलगライ
ずっと 引けるの。 そして 海の底[が]見えて 魚が こうなるくらい

ヒケンダゲド ソノツキ マダ ザーツ ヨセデキテ サイショ コゴマデ キテ
引けるんだけど その次 また ざっと[波が]寄せてきて 最初 ここまで 来て

モーイッカイ ヒケダラ ソノツキワ コノヘンマデ クンノ ホシテ ヒケタラ モット
もう1回 引けたら その次は この辺まで 来るの そして 引けたら もっと

コッチマデ クンノ ダンダント スコシズツ コッチニ。
こっちまで 来るの だんだんと 少しずつ こっちに。

— : 近づいてくる。

035A : ソレワネ ケーケンシタンデスケドモ コー タガイ ナミ コナガッタカラ ダガラ
それはね 経験したんですけれども こう 高い 波[は] 来なかったから だから

ポーハテヨリモ コッチニ ウジノホーニワ コナガッタガラネ ポーハテノ
防波堤よりも こっちに 家のほうには 来なかったからね 防波堤の

シタマデワ キタンダッタケドモ ソンナニ キケンセーワ ナガッタノ
下までは 来たんだけど そんなに 危険性は なかったの

コーユーナミ キタンデナイガラ。

こういう波[が]来たのではないから。

036B : ダガラ ウゲドノ ヒトモナ ホーユー タイケンワ シテネーガラナ。
だから 請戸の 人もね そういう 体験は してないからね。

ホントニ コンカイワ キョダイダワナ ホントニ キョダイツナミダ。 コナイ
本当に 今回は 巨大だね 本当に 巨大津波だ。 来ない

ダイジョーブダ ホンナ ツナミナンテ コナイガラーッテ ミンナ ウン アマグ
大丈夫だ そんな 津波なんて 来ないからって 皆 うん 甘く

ミデダダワナ。
見ていたんだね。

037A : デモ アノジシンワ オッキガッタモンナ。 ジシン オッキガッタガラ ヤッパリ
でも あの地震は 大きかったもんな。 地震[が]大きかったから やっぱり

モシカシタラッテ カンカ°エナクチャナンナガッタダカモシレナイゲド ヤッパリ
もしかしたらって 考えなくちゃならなかったのかもしれないけれども やっぱり

タイケンシテネッテ ユーゴドワナ ソレダゲ アノー キケンセーワ ハランデルワナ。
体験してないと いうことはな それだけ あの 危険性は はらんでいるね。

038B : クンレンシタッテナ ソラホドノ クンレンモ シテネガラナ アズグノ タデノウジノ
訓練したってね それほどの 訓練も していないからな あそこの 館ノ内の

ヤマサ アカ°ッタッテ チョゴットタゲ イデナー アド コンド タナンショノ
山へ 上がったって 少しだけ いてね あと 今度 棚塩の

ボチコーエンサ イッテ クンレンシタッテ ホノホド アイズナ クンレン シテネーモノ。
墓地公園へ 行って 訓練したって それほどの 訓練[は]していないもの。

039A : マジデモ ケッコー ヒナンクンレンワ シタンデスヨ。
町でも 結構 避難訓練は したんですよ。

— : そうなんですか それは津波の？

040A : ウゲンドノ ソノタガイドゴノ ヒナンクンレンニ イッテモ コゴデワ アンブナイッテ
請戸の その高いところの 避難訓練に 行っても ここでは 危ないと

ユーコトデ マダ バス ムガエニ キテ キョードーボチ アットゴ ボチコーエンッテ
いうことで また バス[が]迎えに 来て 共同墓地[の] あるところ 墓地公園って

アンダケド ソッチノホーニモ コー インドーシタリシテ ソーユークンレンワ
あるんだけども そっちのほうにも こう 移動したりして そういう訓練は

ナンカイガワ シテンダゲドモ ホンナニ ジッサイニ ツナミ キタゴド ナイカラ。
何回かは していたんだけども そんなに 実際に 津波[が]来たこと[は]ないから。

— : 確かに、訓練はあくまでも訓練ですからね。

041B : クンレンダガラ。
訓練だから。

— : いや大変でした。地震はどれぐらいだったんですか。請戸は6?地震の震度は6 ぐらいはあったんですかね。

042A : ドレグライ アッタンダベネ ログワ アッタナ。
どれくらい あったんだろうね [震度]6は あったな。

043B : ログワ アッタダベナ ゴーデワ キカネワ。
[震度]6は あっただろうね [震度]5では きかない。

— : やっぱり。福島も5強ぐらいだったんですよ。

044A : コノマエモ オッキガッタヨネ。
この前[の地震]も 大きかったよね。

— : このあいだ大きかったですね。ちょっとね、びっくりしましたね。

045B : キレズ アッタモンナ。 ドーロ ズット コノク°レーズズ キレズ
亀裂[が]あったもんな。 道路[に] ずっと このくらいずつ 亀裂

— : ああそうですか。その3.11の時?

046A : サンテンイチントギワ ワタシラ ホラ バスニ ノッテデ ミジノ ヨセデ ヒナンシテデ
3.11 の時は 私達[は] ほら バスに 乗っていて 道の端で 避難して

インザ オワッテ ハシリダシタドギニ ニヒャクハチンジューハチコ ーナンダゲド
いざ [揺れが]終わって [バスが]走り出した時に 288 号[線]なんだけれども

マンナガ ドーロノ マンナガ コンナ キレズニ ナッテンダxxx
真ん中 道路の 真ん中が こんな 亀裂に なってんだxxx

047B : ドーロ キレズ ズーット ハイッタノ。
道路[に] 亀裂[が] ずっと 入ったの。

— : そうですか。

048B : デ バス トーランニガッタノナ。
で バス[は]通れなかったのね。

049A : ウン バスワ アンブナイガラ ミンナ オリデッテ ユワレデ ワタシラ オリデ
うん バスは 危ないから 皆 降りてって 言われて 私達 降りて

ヨセ トーッテネ デ バスワ キレズオ サゲナンガラ コー ジンカイシテ ソシテ
[道の]端[を]通ってねで バスは 亀裂を 避けながら こう 巡回して そして

ヨセニ イッテ ナンカイモ ソーユーゴト ノッターリ オリダリシテ
端に 行って 何回も そういうこと 乗ったり 降りたりして

— : そうですか。

050A : サンジップングライデ ツクドコ サンチカンモ カガッテイッタ。
30 分ぐらいで 着くところ 3 時間も かかって行った。

— : ああそう。

051B : ダガラ ヤッパリ アンデ ログワ アッタモンナ。
だから やっぱり あれで [震度]6 は あったもんな。

052A : アッタナ コッチ イグト ハシ オッコツテットガネ コッチ イッタラ キレツ
あつたな こっち 行くと 橋[が]落ちているとかね こっち 行ったら 亀裂[が]

アットガ ガゲクンズレシテットガツテユツテ マワリマワツテ イツテ トーマワリシテ
あるとか がけ崩れしているとかいって 回り回って 行って 遠回りして

イッタガラネ サンチカンモ カガツテ イッタノ。
行ったからね 3 時間も かかって 行ったの。

— : どころへんで地震はおあいになったんですか？ 磐梯熱海から帰る途中の時のどの辺で？

053B : ソー カエル トジュー。
そう 帰る 途中。

054A : ニヒャクハチンジューハチコ[°]ーセンノ オークママジノ ノンガミツテユードゴ アルンデスヨ。
288 号線の 大熊町の 野上っていうところ[が]あるんですよ。

— : 野上, はいわかります, わかります。

055A : アソゴントゴナノ。
あそこのところなの。

056B : ソゴマデ キタガラ イガツタノナ。
そこまで 来たから よかったのな。

— : じゃあ, だいぶもう浜まで。

057A : フタンバニチカイホーダツタノ。
双葉に 近いほうだったの。

058B : ホントワナ オヒル タベナイデ アサハ デデクレバ ウゲドニ カエツテキタノハ。
本当はな お昼 食べないで 朝もう 出てくれば 請戸に 帰ってきたのもう。

デモナ ワダシラ トショリダモノ ホンナ イソイデ インコド ネーガラ
でもね 私達 年寄だもの そんな 急いで 行くこと ないから

オヒル タベデ ユックリ イギマショード ナツテナ オヒル タベデ ユックリシタガラ
お昼 食べて ゆっくり 行きましようとなつてな お昼 食べて ゆっくりしたから

ダガラ ウゲドニワ トドガネガッタガラナ ダガラ イガッタノ。
だから 請戸には 着かなかったからな だから よかったの。

一：よかったですよね。それも着いて途端に。

059B：オヒル タンベナイデクレバ ウゲドサ キタガラ モシカシタラ
お昼 食べないで 来れば 請戸へ 来たから もしかしたら

ナカ° サッチダガモワガンネー
[津波に]流されていたかもしれない

060A：ソー ウゲドニ キッタッタラ ナンガサレダダガモワガンナイシ ワタシモネ クルマ
そう 請戸に 来ていたら [津波に]流されていたかもしれないし 私もね 車

ジブンノ モッテンダгент チーサイノ リョゴニー イグタメニ ヤグバニ
自分の 持っているんだけども 小さいの 旅行に 行くために 役場に

バス ムガエニ キタガラ ヤグバニ タノンデ オイデッタノ ソレデ
バス[が]迎えに 来たから 役場に 頼んで [車を]置いていったの それで

ナンガサレナガッタノ ウジニ オイダラ ダメダッタ。
流されなかったの 家に 置いたら 駄目だった。

一：なるほどなるほど、役場のあたりまでは来なかったんですね。

061B：ヤグバマデワ コナガッタノ。
役場までは [津波が]来なかったの。

一：波はどの辺まで来たんですか。津波。

062B：ツナミワネ ロクコーセンヨリモ ドノク°ライ
津波はね 6号線よりも どのくらい

063A：ヒンガシチューンガッコーノ コッチマデ
東中学校の こっちまで

064B : ゴヒャグメーターガ イチキロマンデワ ネーングライダガラ ヒンガシチューンガッコーノ
500m か 1km までは ないくらいだから 東中学校の

マエマンデ キタッテ ユーンダガラナ。
前まで 来たって いうんだからね。

065A : キタッテ ユーケドナ。
来たって いうけれどもね。

— : じゃ、6号は一応越えないであれだったんですね。

066A : コエナガッタノ ログコーセンマデ クルグライニワ ドノグライ
越えなかったの 6号線まで 来るぐらいには どのくらい？

アレ イチキログライワ アッタノガナ。
あれ 1km ぐらいは あったのかな。

— : じゃあ、結構あれですかね。

067B : アッチノホーニ イッタコド アルンデスカ。
あっちのほうに 行ったこと[は]あるんですか？

— : 私ね、しょっちゅう伺ってて、実は震災の半年前もちょっと浪江に方言を教えていただきにお邪魔してたところだったんです。

068A : アー ソーデスカ。
ああ そうですか。

— : 小高にちょっと一緒に研究してる先生いるもんですから。

069B : オダガニ コーユーホーゲン ヤッテル センセー イダヨナ。
小高に こういう方言[を]研究している 先生[が] いるよね。

— : ええ、小林初夫さんって。私知り合いで、一緒にいつも共同研究してて浪江もよくお邪魔させてもらって。幾世橋あたりもずっと伺ったのもあったんですけども。

070A : アー ソーデスカ。
ああ そうですか。

071B : ンジャ スコシ ワガッテルナ。
それでは 少し わかっているな。

— : 小高は結構, 6号越えて駅あたりまで来たって言っていましたよね, 津波。

072B : ソー オンダガワ ロクコー コエダノ。
そう 小高は 6号[線を]越えたの。

— : 常磐線も越えて来たって。

073A : ソーデス。
そうです

074B : オダガワナ。
小高はな

— : 小高のほうはね。

075B : ダガラ ウジノ アレ ネーサンワ ロクンゴークドー トーッテデ クルマ ツナミノナ
だから うちの あれ おねえさんは 6号国道[を] 通っていて 車[に] 津波のね

アレンガ ミズカ° ハイッテキタツツタモノ。
あれが 水が 入ってきたと言っていたもの。

— : ああそうですか。大丈夫だったんですね。

076B : デモ クルマ ドア アゲダガラホレ ニゲヨード オモッテ ドア アゲダラ ナミカ°
でも 車[の] ドア[を]開けたから 逃げようと 思って ドア[を]開けたら 波が

キテ ハイッテ ンデモホレ ナカ° サンニガッタガラナ ダイジョーブデ キタгентモ
来て 入って それでも 流されなかったからな 無事で 来たけれども

オダガワ キタツツタモンナ アソコ。
小高は[津波が]来たそうなものね あそこ。

077A : ロクコー コエデ ホントニネ エキ チカクマデ イッテンダヨ

6号[線を]越えて 本当にね 駅 近くまで [津波が]行っているんだよ

チョーリツビョーインノ チカクヘンマデワ イッテンノ。
町立病院の 近くまでは 行っているの。

078B : ダガラ X1 チャンノ ヘンダッテ イマチット シタラナー クルマデ
だから X1 ちゃんの 辺りだって もう少し したらなあ 車で

ロクコーセンノ トゴダモノ。
6号線の ところだもの。

079A : X1 ントゴワナ ロクコーセンノ スング ニシッカワダガラ ロクコーセンデ トマッタノ。
X1 のところはな 6号線の すぐ 西側だから 6号線で 止まったの。

080B : ダガラナ アレ ホント コエダゴンダラ サラワレルモンナ。
だからな あれ 本当 越えたのなら [津波に]さらわれるもんな。

081A : ホントダ。
本当だ。

— : そうですね。浪江はちょっとあれがあるんですかね、距離が。6号までの、海から距離。ちょっとあるんですよ、確かね。

082A : ソーデスネ ウミガラ ヨンキログ ゴキログライワ アリマスネ。
そうですね 海から 4kmか 5km ぐらいは ありますね。

— : 富岡なんか、駅全部抜かれたみたいですね。昨日ちょっと写真見せてもらったら。

083A : ソーダネ トミオガワ ウミノホーニ チカイ センロ トーッテッカラネ。
そうだね 富岡は 海のほうに 近く 線路[が]通っているからね。

— : 場所場所でやっぱりね。

084A : アノー ムガシネ ムガシノ ハナシ キーダハナシダゲド コノテズンドーネ
あの 昔ね 昔の 話 聞いた話だけれども この鉄道ね

ウゲンドノホー トーシタイッテユー ハナシダッタラシーンダゲド ウゲンドノ ヒトダジ
請戸のほう[を] 通したいという 話だったらいいんだけども 請戸の 人達[は]

テズドー トーット ニワドリ タマンゴ ウマナグナッカラッテ ハンタイシテ
鉄道[が]通ると 鶏[が]卵[を]産まなくなるからと 反対して

ナミエ トールヨーニ ナツタンダッテ ユーゴト キーダゴド アンノ。
浪江[を]通るように なったんだって いうこと 聞いたこと[が]あるの。

085B : シンドー アッカラナ キシャ トーット シンドー アッカラナンテ
振動[が]あるからな 汽車[が]通ると 振動[が]あるからなんて

ホンナ ハナシワ アッタナー。
そんな 話は あったな。

086A : ダガラ ハマワ トーンナガッタンダワナー

だから 浜は [線路が]通らなかったんだよな

087B : ウゲドノ ヒトラ バガンダゴド シテナー トーレバ サガナ シュッカ ホレナ
請戸の 人達[は] 馬鹿なこと そして [線路が]通れば 魚 出荷

カモズレッシュャニ サガナ ダサレッカラ イガッタノニ マッタグ バガンダゴド
貨物列車に 魚[を]出せるから よかったのに まったく 馬鹿なこと

ホンニ ナンテ。
ほんに なんて。

— : でも、あれ結構言われたみたいですよ。お蚕さんに影響出るからって行って通すなって言ったところもあるとかというのね。新地もそうですよね。確かこう、ちょっと町から離れたところに駅があるのは。

088B : デモ タシカニ コンカイワ テズドーフ ウゲド トーンネーデ コッチン
でも 確かに 今回は 鉄道は 請戸[を]通らないで こっちに

ナッテッカラ。
なっているから。

089A : テズドー エーキョーシネガッタゲントナ。
鉄道[は] 影響しなかったんだけれどもな。

090B : トーッタモンダラ ホントニ
通っていたものなら 本当に

091A : トミオガナンカワ エギモ ナインダガラ ホントニ。
富岡などは 駅も ないんだから 本当に。

— : 本当にね。あれ, 船なんかは, 中に船をわざわざ沖に出した方もいたなんていう, それもやっぱり。

092B : ウン ソー ツナミントギニワネ ミナトニ イルヨリモ オギニ ダセバ ホラ ナミワ
うん そう 津波のときにはね 港に いるよりも 沖に出せば ほら 波は

コンナン ナンナイ タイラデ イッカラ ダガラ オギノホーシガ イーッテ ハナシワ
こんなに ならない 水平で いるから だから 沖のほうが よいという 話は

アンノネ ンジャガラ ナンソーガ ダシタンダワ。
あるのね だがら 何艘か 出したんだわ。

093A : フネ タスカッタ シトモ インダゾ。
船 助かった 人も いるんだぞ。

— : そうですか。

094B : ホンデナ ××××××
それでな ××××××

095A : ソシテ コー ダスノニ ヒトイギ オグレデ ナミニ アッテ シズンダッテユー
そして こう 出すのに 一息 遅れて 波に あって 沈んだという

フネモ アンノ。
船も あるの。

— : なるほど。

096B : アレ オキサ デデ X2 ラナー イワキサ イッテ フネ アッテ ホッテ
あれ 沖へ 出て X2 達なあ いわきへ 行って 船[が]あって そして

モッテキタツツッタド。 ムゴーカラ レンラグ ホレ フネノ ナマエ ツイデッカラ
持ってきたと聞いたぞ。 向こうから 連絡[が]あって 船の 名前[が] ついてるから

097A : ナマエ カイデッカナンナ

名前[が]書いてあるからな

098B : ソンデ コンド レンラグ アッテ ソックリ シッタッテ X2 ワ
それで 今度 連絡[が]あって [損傷もなく]そっくりしていたって X2 ワ

ソックリ シテッカラ ヌラレルッテ イッテダド。
そっくりしているから 乗られるって 言っていたよ。

— : それは、乗ってなくて船だけが流されていったんですか。いわきのほうに。

099B : ソー フネタゲ。
そう 船だけ。

— : 船だけ流されていった。

100A : デモアレ ツナミントギ デタ シト イッカイワ ミナドニ カエッテキタンダベー。
でもあれ 津波の時[に] 出た 人 1回は 港に 帰ってきたんだらう。

101B : ンダベナー。
そうだろうな。

102A : カエッテキテ アンガッテ フネタゲ オイタンダベガラ ソノアド コー
帰ってきて 上がって 船だけ 置いたんだらうから その後 こう

ナンガレダノガナー。
流れたのかな。

資 料

福島大学第 57 回定例記者会見資料

関連新聞報道

2013年10月16日

文化庁「平成25年度被災地における方言の活性化支援事業」

～福島県内被災地方言情報のweb発信～

事業の目的

本事業は、福島県浜通りおよび北部阿武隈高地の方言情報を発信するwebページ構築を目的とする。東京電力の原子力発電所事故による県内外での避難生活が長引く中、被災された方々がふるさとの方言を懐かしみ気兼ねなく自らの方言を話したいという思いを抱いていることが、昨年度福島大学が実施した「東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業(福島県)」によって明らかとなった。一般の方々が容易にアクセスできる、当該地域方言のwebコンテンツの充実は、被災された方々のこうした思いへの一助となりうる。

事業実施体制

| | |
|-----|--------------------|
| 責任者 | 半沢康(福島大学人文学類・教授) |
| 分担者 | 本多真史(福島大学人文学類・研究員) |

事業計画

(1)被災地方言の補充調査

昨年度の事業において県内被災地方言の自然談話資料収集を行なったが、地域が広域に及ぶため全地域の調査を終えることができなかった。調査データが不十分な自治体について補充調査を行なう。

昨年度と同様に仮設住宅等を訪問の上、被災された方々から被災状況等について自由に語っていただき、方言自然談話を収集する。

(2)福島県内被災地の方言情報を発信するwebページの構築

(1)の作業と平行してwebページの作成作業を行なう。掲載するコンテンツとしては①震災時の経験を語った談話資料、②浜通り各地、阿武隈高地を対象とした「音声言語地図」(通常の言語地図に音声ファイルをリンクし、地図上の記号をクリックすると語形の発音を確認できるような地図)などを想定している。

(お問い合わせ先)

人文学類・半沢康

Email yhanzawa@educ.fukushima-u.ac.jp

避難者の方言紹介へ

福島大 本年度中に専用ページ

福島大は本年度、東京電力福島第一原発事故の避難区域などで使われていた方言について、インターネットによる情報発信に取り組む。方言を音声などで紹介する専用のページを本年度中に開設する。事業責任者の半沢康同大人間発達文化学類教授が16日、記者会見して明らかにした。

故による避難などで方言の継承が難しくなっている地域。専用ページは、各地の方言の音声ファイルを地図上に配置した「音声言語地図」の掲載や、震災、原発事故時の経験を語ってもらう談話資料の紹介などを想定している。

被災地の「方言」HPで紹介

津波や原発事故
福島大は、東京電力福島第一原発事故の避難区域や東日本大震災の津波被災地に伝わる方言の各種データをホームページ上で閲覧できるシステムを年明けにもつくる。十六日、同大で開いた記者会見で発表

福島大データ化
年明けにも作成

文化庁の助成事業。避難などで住民が散り散りになった地域では地元で伝わる方言が失われる危険性がある。このため、同大は昨年度から避難区域などの住民の方言の調査を進めてい

上では、さまざまな物事について各地の方言による呼び方の分布表を掲載する。さらに避難住民らの方言を交えた語りを録音した音声も聞くことができるようにする。方言に関する解説も掲載する。県内外に避難している住民が地元の方言を気軽に聞き、確認できるようにする。

福島民報(2013.10.17)

福島民友新聞(2013.10.17)

避難区域の方言 ネット公開

福大、来年から「子孫に継承を」希望多く

東京電力福島第一原発事

故で県外に避難している被災者が故郷の方言を懐かしく思い、「使いたい」との思いを抱いていることがわかり、福島大は来年1月から、継承が危ぶまれている避難指示区域の方言をイン

草の実「おなもみ」の主な呼び方
(福島大調査)

| | |
|---------|----------|
| 【地域】 | 【方言】 |
| 飯館村 | 「クサノミ」 |
| 葛尾村 | 「ガンコジ」 |
| 川内村 | 「クッツキムシ」 |
| 南相馬市原町区 | 「クッツキムシ」 |
| 浪江町 | 「ガンコジ」 |
| 双葉町 | 「ガンコジ」 |

ターネット上の専用サイトで公開する。

公開されるのは、動植物などの方言地図や発音がわかる音声データ、仮設住宅などでインタビューした避難住民の体験談など。福島大の半沢康教授(日本語学)らのグループが浜通り地方や飯館村などの阿武隈高地周辺で、1995年から行ってきた方言調査を基にした。

専用サイトは文化庁の助成を受け、来年1月以降、順次データを公開していく方針。地域住民や家族がバラバラに避難したことで方言の継承が危ぶまれる中、体系的に方言の保存・公開に取り組み、地域コミュニティの維持に役立てよう

というのがねらいだ。

きつかけは今年1〜2月、半沢教授が大分県に避難中の被災者に行ったアンケート調査だった。22人の県内出身者が回答、方言について「愛着を感じる」(100%)、「子供や孫に受け継いでほしい」(78%)と答えていることがわかった。

一方で、家族と方言を話す機会は「減った」とする回答が50%にのぼり、避難生活で「普通に話したことが通じない。バカにされた」などとストレスを感じている実態も明らかになった。約14万2000人が県内外に避難しているだけに、半沢教授は「若い世代の流出は長期的に見て、方言の

消滅につながる恐れがある」と指摘。「方言に簡単に触れられるサイトを作ることが、少しでも方言の継承に役立てば」と話している。

読売新聞(2013.11.24)

東日本大震災の被災地では、自宅を再建できていなかったり、原発事故の影響で避難が続いたりして、いまだに地元に戻れない人々が大勢いる。地域社会のつながりが薄れて方言の存続まで危ぶまれるようになり、大学関係者らが保存や継承の取り組みに乗り出している。

1月中旬、福島県郡山市内の仮設住宅で、福島大の聞き取り調査が行われた。方言を記録し、方言に対する意識などを調べるのが目的。同大の半沢康教授とともに、方言学を専攻する学生3人が、県沿岸部の富岡町から避難している6人にインタビュ―を実施した。

「どんな時に富岡町の方言を話しますか?」「お子さんたちは方言を使いますか?」などと聞くと、仮設の人たちも次第に打ち解け、やけ



保存・継承 模索する被災地

どを「カンカチ」ということや、県中部では「兄」を指す「アソニヤ」が「姉」を意味するこ

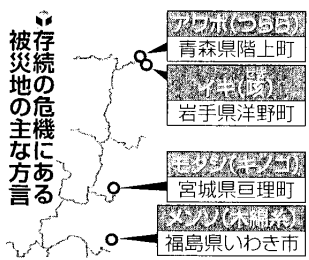


仮設住宅で方言について被災者から話を聞く福島大の学生たち(右側の3人＝福島県郡山市で)

などを紹介した。「方言について話していると、ふるさとが懐かしくなってくるね」。しみじみと語り合った。

福島市出身の同大3年、嶋原知里さん(21)は「震災のことをどこまで聞いていいのかわりながらインタビュ―した。故郷への強い思いが伝わってきた」と話した。調査に応じた筒井康弘さん(67)は「地元の文化の根っこ

※「日本語地図」をもとに東北大方言研究センターが分析



存続の危機にある被災地の主な方言

にあるのが方言。若い人が関心を持って調査するのは大切だ」と語った。

半沢教授は、調査・収集した被災地の方言を今後、インターネット上でも発信する。「県内の伝統的な方言は以前から衰退

しつつあったが、震災が加速させる恐れがある。様々な方法を模索しながら、地域の言葉をつないでいきたい」と話す。

岩手大学でも、岩手県沿岸部の陸前高田市や大船渡市などの方言を録音したCD制作などを実施。東北大学では方言研究センターが被災地の方言の会話を記録して公開したり、伝承活動を紹介したりしている。被災地のコミュニティーが壊れ、方言が消えていくのを危ぶむ文化庁も、こうした研究者らの取り組みを支援する。

方言は、地域文化のよりどころだ。地域のこころを乗せた方言を伝える取り組みは、さらに広がっていきそうだ。

(この連載は泉田友紀、坂井伸行、保井隆之が担当しました。次のシリーズは東日本大震災の被災地から、学校の現状や課題をレポートします)

2013 年度文化庁委託事業報告書

福島県内被災地方言情報の web 発信

〒960-1296 福島市金谷川 1
福島大学 人間発達文化学類 国語学研究室
Tel/Fax 024-548-8124
e-mail yhanzawa@educ.fukushima-u.ac.jp

印刷:2014 年 3 月 30 日

発行:2014 年 3 月 30 日
